
湯河原町都市マスタープラン改訂業務

住民アンケート調査報告書

令和7年6月

湯河原町

1. 調査の概要

1) 調査の目的

湯河原町では、令和6～7年度の2か年をかけ、「湯河原町都市マスタープラン」の改訂を行うこととしている。

本住民アンケート調査では、湯河原町都市マスタープランの改訂を行うにあたり、広く町民の皆さまから意見を伺うため、町内にお住まいの18歳以上の方2,000名を無作為に抽出し、実施するものである。

2) 調査の方法

- (1) 調査地域：湯河原町全域
- (2) 調査対象：全町民（18歳以上）
- (3) 母集団：22,073人（令和7年1月1日現在）
- (4) 標本数：2,000票
- (5) 抽出方法：18歳以上の町民から無作為に抽出
- (6) 調査方法：郵送による発送・回収
- (7) 調査期間：令和7年1月16日～令和7年2月28日

3) 回収結果

- (1) 標本数：2,000票
- (2) 有効回収数：652票
- (3) 有効回収率：32.6%

2. 調査結果

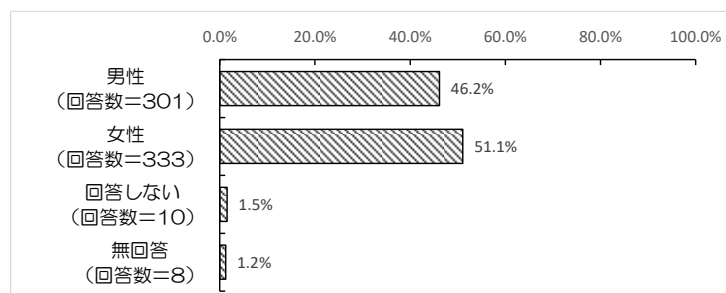
問1 あなたの性別は。

1. 男性

2. 女性

3. 回答しない

- ・性別については、「女性」が51.1%、「男性」が46.2%で女性の回答率が高くなっている。
- ・年齢別でみると、20～60歳代までの回答者については全て「女性」が高くなっている。
- ・居住地別でみると、第1地区、第3地区については男性が多く、第2地区、第4地区については女性が高く、1位はいずれも5割以上となっている。

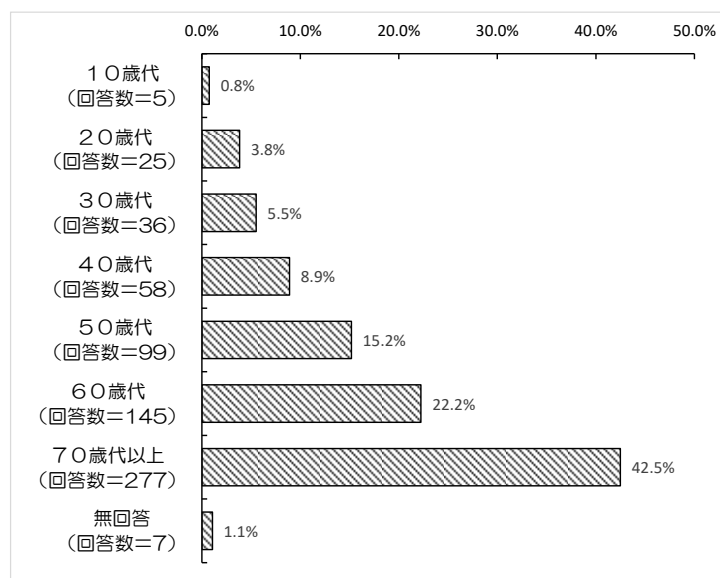


		1位	比率	2位	比率
総 計		女性	51.1%	男性	46.2%
年 齢	10歳代	男性	60.0%	女性	20.0%
	20歳代	女性	56.0%	男性	44.0%
	30歳代	女性	72.2%	男性	22.2%
	40歳代	女性	58.6%	男性	39.7%
	50歳代	女性	50.5%	男性	44.4%
	60歳代	男性	49.0%	女性	51.0%
	70歳代以上	男性	50.5%	女性	48.0%
居 住 地	第1地区	男性	55.9%	女性	44.1%
	第2地区	女性	53.3%	男性	45.5%
	第3地区	男性	51.6%	女性	47.3%
	第4地区	女性	51.7%	男性	45.2%

問2 あなたの年齢は。

- | | |
|----------|------------|
| 1. 10 歳代 | 5. 50 歳代 |
| 2. 20 歳代 | 6. 60 歳代 |
| 3. 30 歳代 | 7. 70 歳代以上 |
| 4. 40 歳代 | |

- ・年齢については、年齢層が高くなるほど回答率も高くなるという結果になっており、最も高い「70 歳代以上」では 42.5%、最も低い「10 歳代」では 0.8%となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区では「70 歳代以上」が 50.0%となっており、高い回答率となっている。

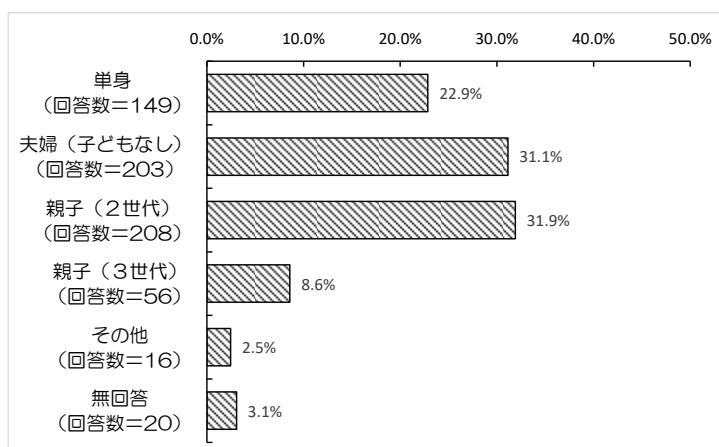


		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		70 歳代以上	42.5%	60 歳代	22.2%	50 歳代	15.2%
性 別	男 性	70 歳代以上	46.5%	60 歳代	23.6%	50 歳代	14.6%
	女 性	70 歳代以上	39.9%	60 歳代	22.2%	50 歳代	15.0%
居 住 地	第 1 地区	70 歳代以上	50.0%	50 歳代	20.6%	40 歳代	8.8%
	第 2 地区	70 歳代以上	39.8%	60 歳代	24.4%	50 歳代	16.3%
	第 3 地区	70 歳代以上	49.5%	60 歳代	23.1%	50 歳代	16.5%
	第 4 地区	70 歳代以上	40.5%	60 歳代	21.2%	50 歳代	13.5%

問3 あなたの家族構成は。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 1. 単身 | 4. 親子（3世代） |
| 2. 夫婦（子どもなし） | 5. その他（ ） |
| 3. 親子（2世代） | |

- ・家族構成については、「親子（2世代）」が 31.9%で最も高く、ついで「夫婦（子どもなし）」が 31.1%、「単身」が 22.9%となっている。
- ・性別でみると、男性では「夫婦（子どもなし）」が 32.9%、女性では「親子（2世代）」が 32.7%となっている。男女ともに1、2位は3割以上となっている。
- ・年齢別でみると、10～40 歳代までの回答者については「親子（2世代）」、50 歳代では「親子（3世代）」、60 歳代以上では「夫婦（子どもなし）」が1位となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区については「夫婦（子どもなし）」「親子（2世代）」がともに 38.2%と高い割合で1位となっている。「単身」の回答率としては第2地区が最も高くなっており、26.0%となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		親子（2世代）	31.9%	夫婦（子どもなし）	31.1%	単身	22.9%
性別	男 性	夫婦（子どもなし）	32.9%	親子（2世代）	30.6%	単身	22.3%
	女 性	親子（2世代）	32.7%	夫婦（子どもなし）	30.3%	単身	24.0%
年齢	10歳代	親子（2世代）	40.0%	単身 親子（3世代）	20.0%	-	-
	20歳代	親子（2世代）	56.0%	単身	28.0%	親子（3世代）	12.0%
	30歳代	親子（2世代）	44.4%	親子（3世代）	19.4%	単身 夫婦（子どもなし）	13.9%
	40歳代	親子（2世代）	65.5%	夫婦（子どもなし）	13.8%	親子（3世代）	12.1%
	50歳代	親子（3世代）	47.5%	夫婦（子どもなし）	22.2%	単身	19.2%
	60歳代	夫婦（子どもなし）	40.0%	親子（2世代）	23.4%	単身	21.4%
	70歳代以上	夫婦（子どもなし）	39.4%	単身	29.2%	親子（2世代）	20.2%
居住区	第1地区	夫婦（子どもなし） 親子（2世代）	38.2%	単身 親子（3世代）	11.8%	-	-
	第2地区	親子（2世代）	31.7%	夫婦（子どもなし）	29.7%	単身	26.0%
	第3地区	夫婦（子どもなし）	34.1%	親子（2世代）	27.5%	単身	22.0%
	第4地区	親子（2世代）	35.1%	夫婦（子どもなし）	29.7%	単身	21.6%

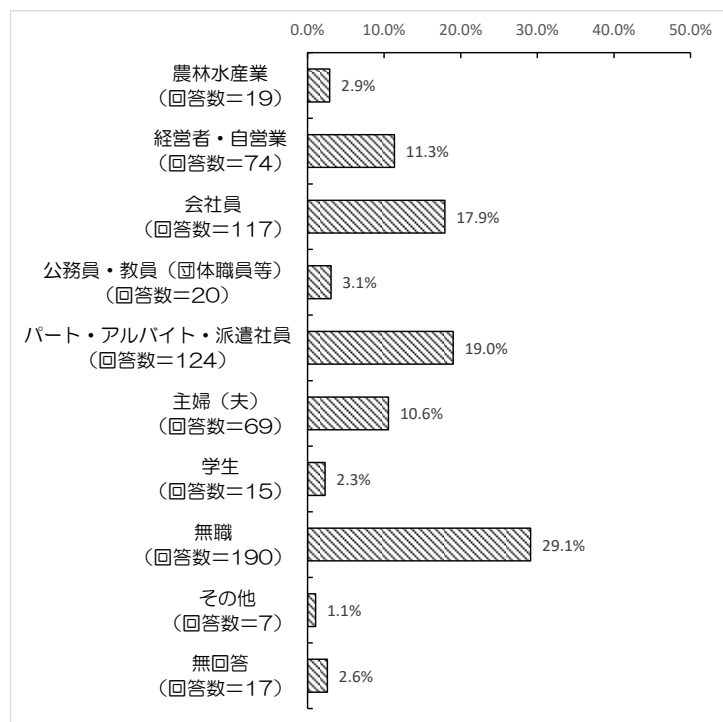
【その他の記載】

- ・同居
- ・父親と子ども1人
- ・主婦と義兄
- ・姉妹
- ・親子4世代
- ・親、叔父

問4 あなたの職業は。（兼業の場合は、主とする職業）

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 農林水産業 | 6. 主婦（夫） |
| 2. 経営者・自営業 | 7. 学生 |
| 3. 会社員 | 8. 無職 |
| 4. 公務員・教員（団体職員等） | 9. その他（ ） |
| 5. パート・アルバイト・派遣社員 | |

- ・職業については、「無職」が 29.1%で最も高く、ついで「パート・アルバイト・派遣社員」が 19.0%、「会社員」が 17.9%で約 2 割となっている。
- ・性別でみると、男性では「無職」が 37.5%、女性では「パート・アルバイト・派遣社員」が 26.7%で 1 位となっている。
- ・年齢別でみると、10～20 歳代では「学生」、30～50 歳代では「会社員」、60 歳代では「パート・アルバイト・派遣社員」、70 歳代以上では「無職」が 1 位となっている。その他、40～50 歳代では 3 位に「経営者・自営業」があげられている。
- ・居住地別でみると、第 1 地区のみ「経営者・自営業」「パート・アルバイト・派遣社員」が 29.4%で 1 位となっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		無職	29.1%	パート・アルバイト・派遣社員	19.0%	会社員	17.9%
性別	男 性	無職	37.5%	会社員	22.9%	経営者・自営業	14.3%
	女 性	パート・アルバイト・派遣社員	26.7%	無職	21.9%	主婦（夫）	20.7%
年 齢	10歳代	学生	100.0%	-	-	-	-
	20歳代	学生	40.0%	会社員	24.0%	パート・アルバイト・派遣社員	20.0%
	30歳代	会社員	41.7%	パート・アルバイト・派遣社員	22.2%	公務員・教員（団体職員等）	13.9%
	40歳代	会社員	39.7%	パート・アルバイト・派遣社員	24.1%	経営者・自営業	20.7%
	50歳代	会社員	37.4%	パート・アルバイト・派遣社員	26.3%	経営者・自営業	14.1%
	60歳代	パート・アルバイト・派遣社員	28.3%	無職	22.1%	会社員	16.6%
	70歳代以上	無職	54.5%	主婦（夫）	14.8%	パート・アルバイト・派遣社員	10.5%
居 住 区	第1地区	経営者・自営業 パート・アルバイト・派遣社員	29.4%	無職	23.5%	会社員 公務員・教員（団体職員等） 主婦（夫）	5.9%
	第2地区	無職	27.6%	会社員	20.3%	パート・アルバイト・派遣社員	19.1%
	第3地区	無職	31.9%	会社員	19.8%	パート・アルバイト・派遣社員	14.3%
	第4地区	無職	30.9%	パート・アルバイト・派遣社員	20.1%	会社員	16.6%

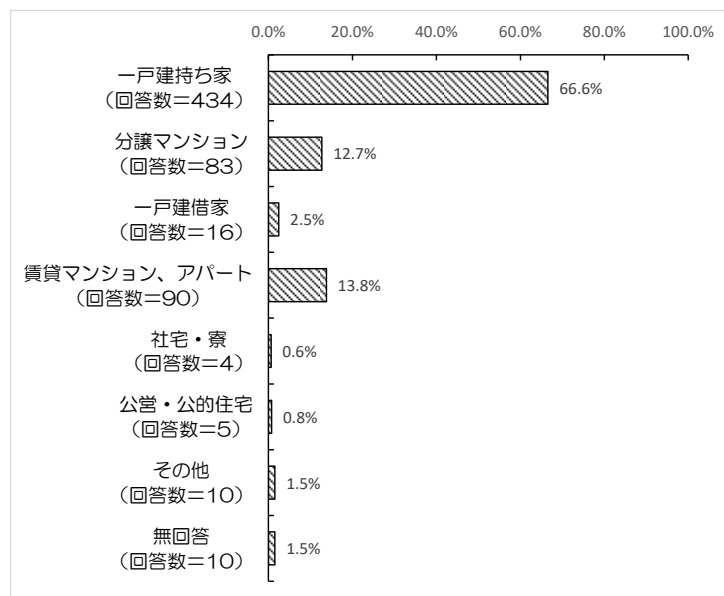
【その他の記載】

- ・ 自由業
- ・ 会社役員
- ・ 年金受給者

問5 あなたの住まいは。

1. 一戸建持ち家
2. 分譲マンション
3. 一戸建借家
4. 賃貸マンション、アパート
5. 社宅・寮
6. 公営・公的住宅
7. その他（ ）

- ・住まいについては、「一戸建持ち家」が 66.6%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、1 位は全ての年齢層において「一戸建持ち家」となっている。2 位では、10～50 歳代は「賃貸マンション、アパート」、60 歳代以上は「分譲マンション」の回答率が高い結果となっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		一戸建持ち家	66.6%	賃貸マンション、アパート	13.8%	分譲マンション	12.7%
性別	男 性	一戸建持ち家	71.8%	分譲マンション	12.0%	賃貸マンション、アパート	10.6%
	女 性	一戸建持ち家	64.0%	賃貸マンション、アパート	15.9%	分譲マンション	13.5%
年齢	10歳代	一戸建持ち家	80.0%	賃貸マンション、アパート	20.0%	-	-
	20歳代	一戸建持ち家	68.0%	賃貸マンション、アパート	20.0%	分譲マンション	8.0%
	30歳代	一戸建持ち家	52.8%	賃貸マンション、アパート	38.9%	分譲マンション	5.6%
	40歳代	一戸建持ち家	65.5%	賃貸マンション、アパート	24.1%	分譲マンション 一戸建借家	5.2%
	50歳代	一戸建持ち家	73.7%	賃貸マンション、アパート	17.2%	分譲マンション	8.1%
	60歳代	一戸建持ち家	72.4%	分譲マンション	13.8%	賃貸マンション、アパート	7.6%
	70歳代以上	一戸建持ち家	64.3%	分譲マンション	17.3%	賃貸マンション、アパート	9.8%
居住区	第1地区	一戸建持ち家	79.4%	賃貸マンション、アパート	8.8%	分譲マンション	5.9%
	第2地区	一戸建持ち家	52.9%	分譲マンション	22.0%	賃貸マンション、アパート	19.9%
	第3地区	一戸建持ち家	79.1%	賃貸マンション、アパート	5.5%	公営・公的住宅	4.4%
	第4地区	一戸建持ち家	75.3%	賃貸マンション、アパート	11.2%	分譲マンション	8.1%

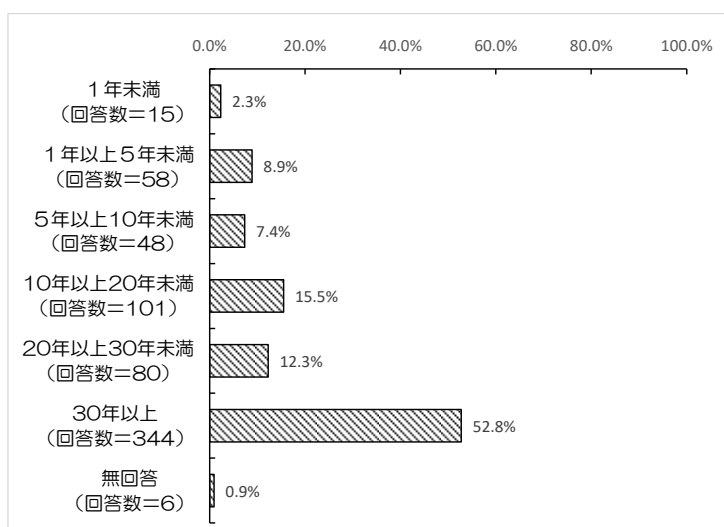
【その他の記載】

- ・ 共同住宅
- ・ 同居
- ・ 老人ホーム
- ・ 親族マンション分譲
- ・ シェアハウス
- ・ 老人ホーム

問6 あなたの湯河原町における居住年数は。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 2. 1年以上5年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | 6. 30年以上 |

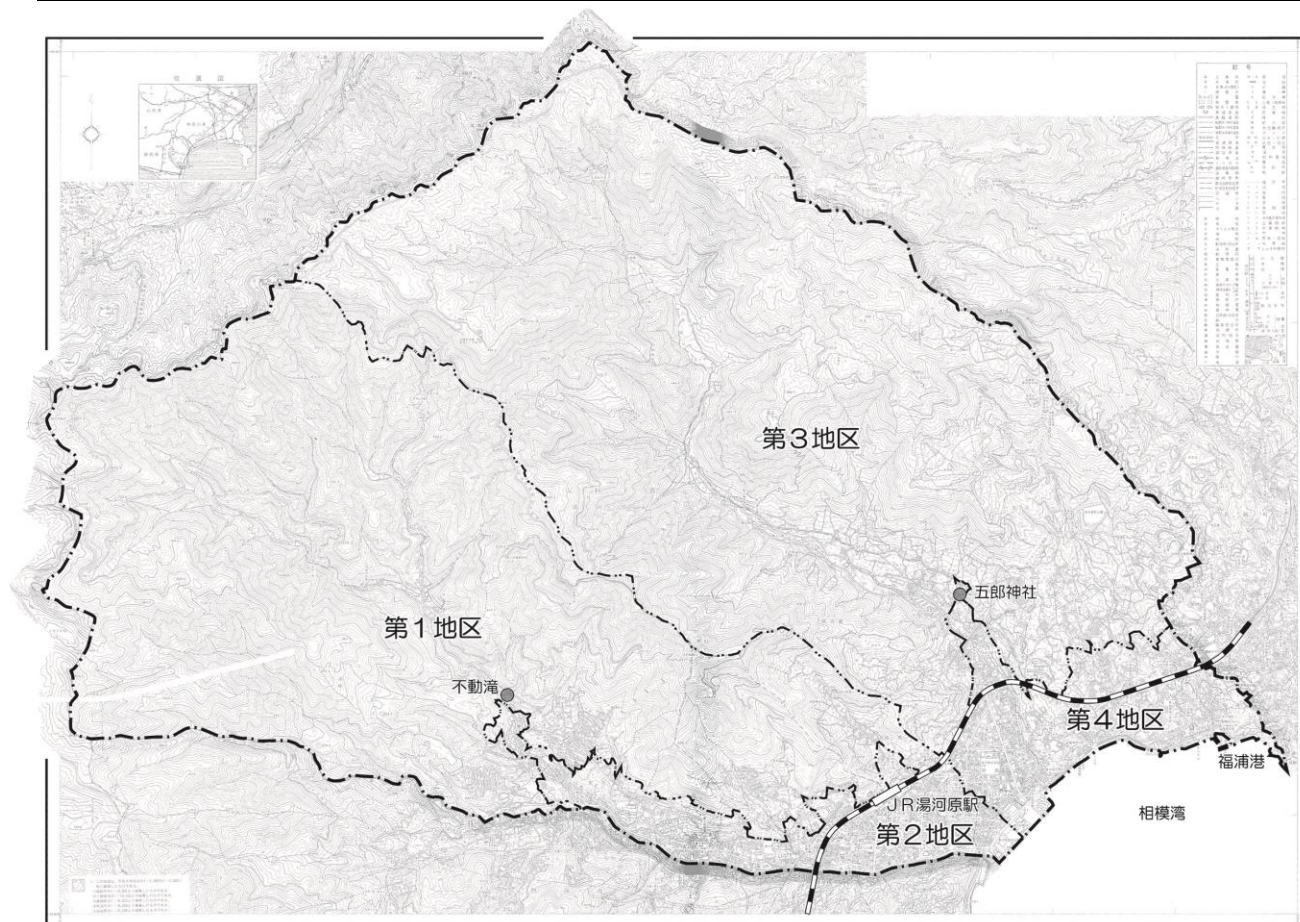
- ・居住年数については、「30年以上」が52.8%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、30歳代以上では全て「30年以上」が1位となっているが、2位では60歳代以上は「10年以上20年未満」が高く、50歳代は「20年以上30年未満」が高い結果となっている。
- ・居住地別でみると、第3地区の2位のみ「20年以上30年未満」が高い結果となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		30年以上	52.8%	10年以上20年未満	15.5%	20年以上30年未満	12.3%
性別	男性	30年以上	56.5%	10年以上20年未満	14.3%	20年以上30年未満	10.6%
	女性	30年以上	50.8%	10年以上20年未満	17.1%	20年以上30年未満	13.8%
年齢	10歳代	10年以上20年未満	60.0%	1年以上5年未満	40.0%	-	-
	20歳代	20年以上30年未満	60.0%	1年以上5年未満	20.0%	10年以上20年未満	16.0%
	30歳代	30年以上	41.7%	1年以上5年未満	22.2%	5年以上10年未満	19.4%
	40歳代	30年以上	37.9%	10年以上20年未満	29.3%	20年以上30年未満	15.5%
	50歳代	30年以上	50.5%	20年以上30年未満	16.2%	1年以上5年未満	15.2%
	60歳代	30年以上	64.1%	10年以上20年未満	12.4%	5年以上10年未満	9.7%
	70歳代以上	30年以上	58.8%	10年以上20年未満	17.0%	20年以上30年未満	10.1%
居住区	第1地区	30年以上	50.0%	10年以上20年未満	29.4%	1年以上5年未満	8.8%
	第2地区	30年以上	51.6%	10年以上20年未満	16.3%	20年以上30年未満	11.0%
	第3地区	30年以上	49.5%	20年以上30年未満	17.6%	10年以上20年未満	13.2%
	第4地区	30年以上	56.8%	10年以上20年未満	13.9%	20年以上30年未満	13.1%

問7 あなたのお住まいの地区はどちらですか。

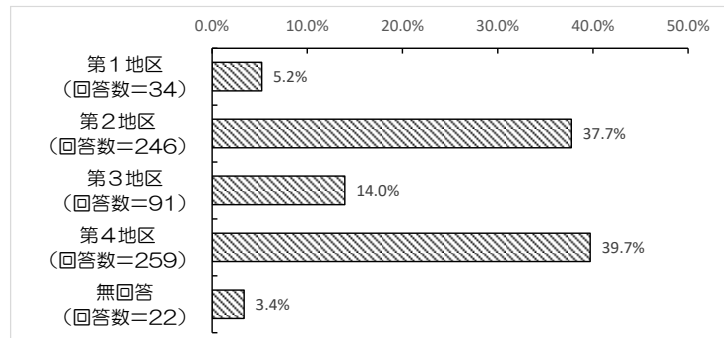
1. 第1地区 ※第1地区に含まれる住所 宮上 673～717・730～732・742～744・746～804 宮下 411～417・419～478・694～697・703～761 城掘 314～415 / 門川 457～477
2. 第2地区 ※第2地区に含まれる住所 宮上 1～672・718～729・733～741・745 宮下 29～409・418・480～679・698～702・762～763 土肥 1丁目～6丁目 / 城掘 1～313 / 門川 1～456・478～517
3. 第3地区 ※第3地区に含まれる住所 鍛冶屋 313～368・421～468・509～520・557～632・713～717・728～956 吉 浜 333～354・458～477・1839～1872・1882～1892・1896～1918・1932～2031
4. 第4地区 ※第4地区に含まれる住所 鍛冶屋 1～312・369～420・469～508・521～556・633～712・718～727 吉浜 1～332・355～457・478～1610・1873～1881・1893～1895・1919～1931 福浦 1～497 / 吉浜福浦 306～315 / 福浦吉浜 167～213 / 福浦鍛冶屋 939～946 中央 1丁目～5丁目



1. 第1地区
2. 第2地区

3. 第3地区
4. 第4地区

- ・お住いの地区については、「第4地区」が39.7%で最も高く、ついで「第2地区」が37.7%となっている。「第1地区」については5.2%で1割以下となっている。
- ・年齢別でみると、20歳代は「第2地区」「第4地区」ともに44.0%で1位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		第4地区	39.7%	第2地区	37.7%	第3地区	14.0%
性別	男性	第4地区	38.9%	第3地区	15.6%	第2地区	37.2%
	女性	第4地区	40.2%	第3地区	12.9%	第2地区	39.3%
年齢	10歳代	第4地区	60.0%	第2地区 第3地区	20.0%	-	-
	20歳代	第2地区 第4地区	44.0%	第3地区	12.0%	-	-
	30歳代	第4地区	52.8%	第2地区	36.1%	第3地区	8.3%
	40歳代	第4地区	50.0%	第2地区	37.9%	第1地区 第3地区	5.2%
	50歳代	第2地区	40.4%	第4地区	35.4%	第3地区	15.2%
	60歳代	第2地区	41.4%	第4地区	37.9%	第3地区	14.5%
	70歳代以上	第4地区	37.9%	第2地区	35.4%	第3地区	16.3%

問8 あなたのお住まいの地区の生活環境について、どのように思われますか。次の各項目に対する「満足度」及び「重要度」について、それぞれあてはまるものを1つ選んで番号に「O」をつけてください。

項 目	満 足 度					
	満 足 で あ る	やや 満 足 で あ る	どちらとも い え ない	やや 不 満 で あ る	不 満 で あ る	無 回 答
1. 住宅地の整備	13.3%	25.8%	34.2%	14.4%	6.9%	5.4%
2. 買い物の便利さ	21.2%	24.1%	12.3%	21.9%	18.7%	1.8%
3. 道路の整備	9.8%	22.1%	23.6%	25.0%	16.3%	3.2%
4. 歩行者・自転車道の整備	6.0%	15.3%	31.7%	26.1%	17.3%	3.5%
5. 公共交通機関の便利さ	10.0%	17.0%	19.6%	25.8%	24.5%	3.1%
6. 公園や緑地の整備	12.3%	32.5%	32.7%	12.6%	6.6%	3.4%
7. 河川の整備	10.1%	23.3%	48.3%	9.8%	4.3%	4.1%
8. 上水道の整備	28.7%	30.4%	30.1%	4.3%	3.2%	3.4%
9. 下水道の整備	25.9%	28.8%	32.1%	5.1%	4.9%	3.2%
10. ごみの減量・リサイクル等	12.0%	31.3%	40.5%	9.5%	3.4%	3.4%
11. 街並み景観の整備	7.2%	21.8%	43.3%	18.3%	6.4%	3.1%
12. 歴史文化・観光資源の整備	4.6%	15.6%	55.8%	12.6%	6.6%	4.8%
13. 防災上の安全性	6.1%	17.9%	44.0%	20.2%	7.8%	3.8%
14. 防犯上の安全性・治安	6.6%	21.8%	39.4%	21.6%	6.1%	4.4%
15. 医療機関の整備	6.6%	29.3%	25.2%	24.4%	11.0%	3.5%
16. 福祉施設の整備	3.8%	17.3%	55.5%	10.7%	7.1%	5.5%
17. 子育て支援施設の整備	3.2%	11.3%	66.9%	6.9%	4.8%	6.9%
18. 保育施設の整備	5.5%	12.7%	65.0%	6.1%	3.1%	7.5%
19. 教育・文化施設の整備	3.4%	12.6%	58.4%	12.9%	6.3%	6.4%
20. スポーツ施設の整備	3.1%	11.8%	57.2%	15.0%	6.9%	6.0%
21. コミュニティ施設の整備	3.7%	10.0%	62.9%	12.6%	5.4%	5.5%

項 目	重 要 度					
	重 要 で あ る	やや 重 要 で あ る	ど ち ら と も い え ない	やや 重 要 で ない	重 要 で ない	無 回 答
1. 住宅地の整備	27.9%	28.4%	25.6%	3.7%	0.6%	13.8%
2. 買い物の便利さ	50.8%	26.1%	9.4%	2.5%	0.5%	10.9%
3. 道路の整備	45.2%	29.4%	12.7%	1.1%	0.5%	11.0%
4. 歩行者・自転車道の整備	35.7%	32.2%	17.2%	2.8%	0.6%	11.5%
5. 公共交通機関の便利さ	50.9%	23.6%	12.1%	2.1%	0.6%	10.6%
6. 公園や緑地の整備	23.0%	34.8%	26.4%	2.6%	1.2%	12.0%
7. 河川の整備	28.7%	24.5%	30.7%	2.8%	0.8%	12.6%
8. 上水道の整備	45.9%	21.6%	18.9%	1.1%	0.5%	12.1%
9. 下水道の整備	43.7%	21.9%	20.7%	1.4%	0.5%	11.8%
10. ごみの減量・リサイクル等	33.7%	30.5%	23.0%	0.9%	0.5%	11.3%
11. 街並み景観の整備	24.1%	33.1%	27.9%	2.9%	1.1%	10.9%
12. 歴史文化・観光資源の整備	21.0%	27.1%	35.0%	2.6%	2.0%	12.3%
13. 防災上の安全性	52.0%	21.5%	14.1%	0.8%	0.5%	11.2%
14. 防犯上の安全性・治安	55.2%	22.4%	10.3%	1.1%	0.2%	10.9%
15. 医療機関の整備	55.2%	23.9%	8.9%	0.9%	0.2%	10.9%
16. 福祉施設の整備	32.7%	25.5%	28.5%	2.3%	0.2%	10.9%
17. 子育て支援施設の整備	25.9%	21.8%	35.3%	2.1%	1.7%	13.2%
18. 保育施設の整備	24.5%	21.6%	36.2%	2.9%	1.7%	13.0%
19. 教育・文化施設の整備	23.6%	26.1%	33.9%	2.8%	1.2%	12.4%
20. スポーツ施設の整備	16.3%	24.5%	39.1%	4.8%	2.5%	12.9%
21. コミュニティ施設の整備	16.1%	24.8%	41.6%	3.5%	2.0%	12.0%

■身近な生活環境について

〈満足度・重要度の評価の見方〉

○満足度

- ・各項目を3段階評価の評価基準を「満足」＝2点、「やや満足」＝1点、「どちらともいえない」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点、として各項目に対する評価を得点化し、平均値（加重平均）を求める。
- ・加重平均が高いほど、その項目に対する満足度が高い。

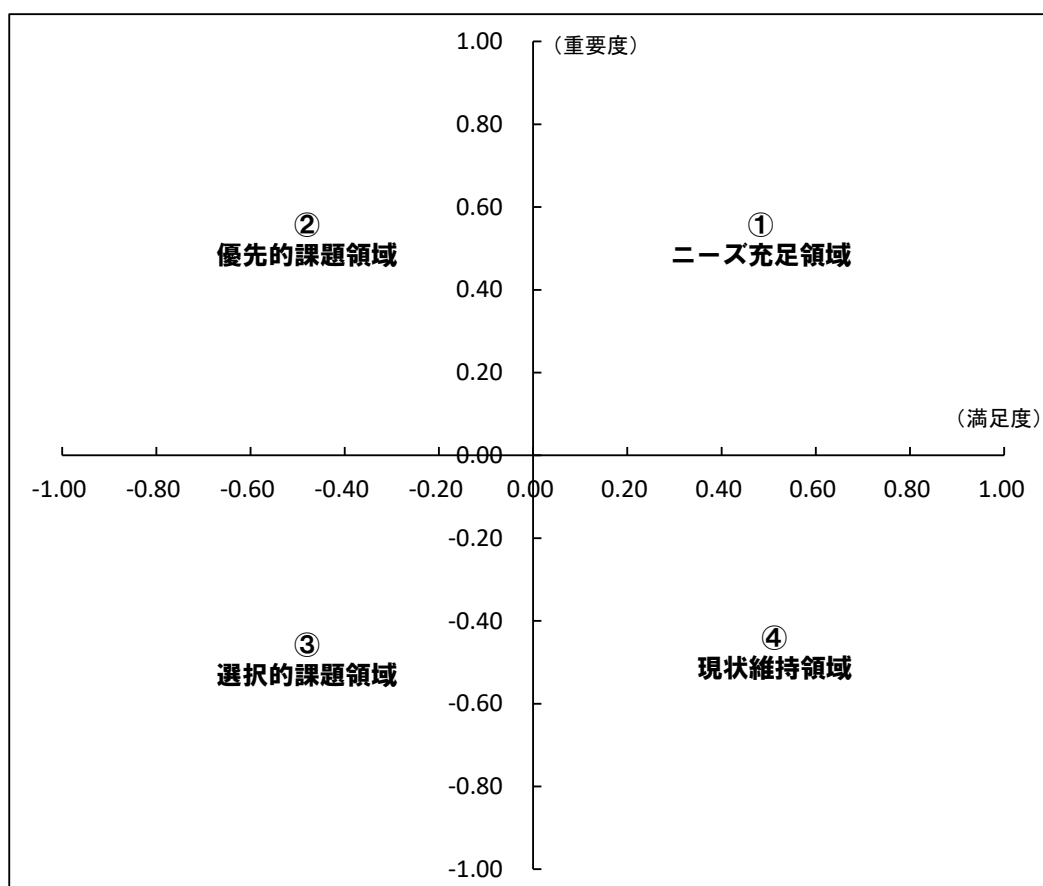
○重要度

- ・各項目を3段階評価の評価基準を「重要」＝2点、「やや重要」＝1点、「どちらともいえない」＝0点、「やや重要でない」＝－1点、「重要ではない」＝－2点、として各項目に対する評価を得点化し、平均値（加重平均）を求める。
- ・加重平均が高いほど、その項目に対する重要度が高い。

○満足度・重要度

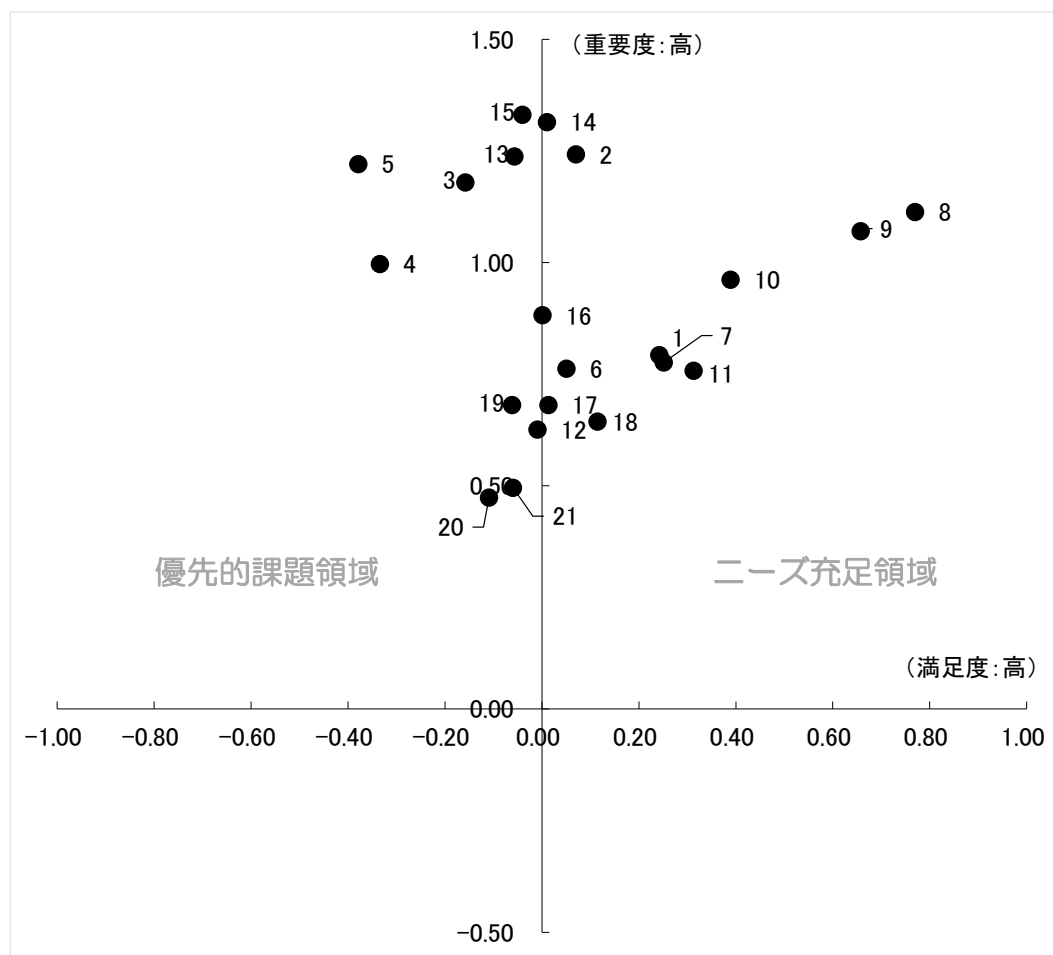
- ・散布図の横軸に「満足度」、縦軸に「重要度」をとりグラフ化し、それぞれの基準値に基づいて各項目を4つの領域に区分する。

- | | | |
|------------------|---|------------|
| ◇満足度が高く、重要度が高い領域 | ： | ニーズ充足領域（①） |
| ◇満足度が低く、重要度が高い領域 | ： | 優先的課題領域（②） |
| ◇満足度が低く、重要度が低い領域 | ： | 選択的課題領域（③） |
| ◇満足度が高く、重要度が低い領域 | ： | 現状維持領域（④） |



※加重平均：設問の各項目での評価項目を点数化して、その各項目を選択した人数を踏まえた平均値の算出方法

- ・身近な生活環境については、21 項目のうち 11 項目がニーズ充足領域となっている。優先的課題領域に位置しているのは 9 項目であり、「16. 福祉施設の整備」については優先的課題とニーズ充足のちょうど中央に位置する結果となっている。満足度が最も高い項目は「8. 上水道の整備」、低い項目は「5. 公共交通機関の便利さ」であり、重要度が最も高い項目は「15. 医療機関の整備」、低い項目は「20. スポーツ施設の整備」となっている。
- ・満足度では、「8. 上水道の整備」のほか、「9. 下水道の整備」「10. ごみの減量・リサイクル等」等が高くなっている。一方で、「5. 公共交通機関の便利さ」のほか、「4. 歩行者・自転車道の整備」「3. 道路の整備」等の満足度は低くなっている。
- ・重要度では、「15. 医療機関の整備」のほか、「14. 防犯上の安全性・治安」「2. 買い物の便利さ」「13. 防災上の安全性」等が高くなっている。一方で、「20. スポーツ施設の整備」のほか、「21. コミュニティ施設の整備」「12. 歴史文化・観光資源の整備」「18. 保育施設の整備」等の重要度は低くなっている。



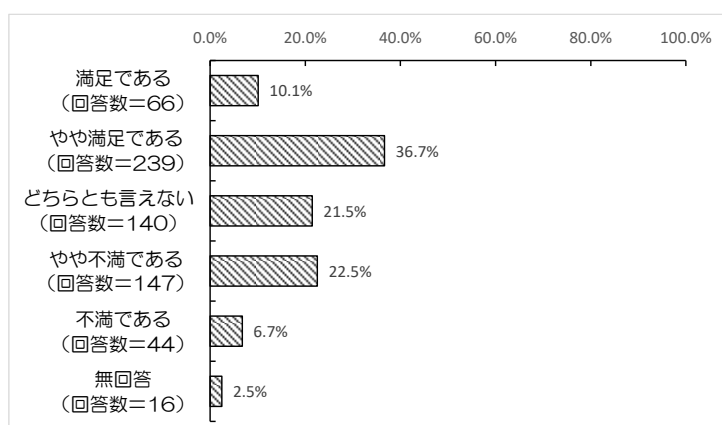
〈各項目での満足度・重要度一覧表〉

項目		満足度	重要度
1.	住宅地の整備	0.24	0.79
2.	買い物の便利さ	0.07	1.24
3.	道路の整備	-0.16	1.18
4.	歩行者・自転車道の整備	-0.33	1.00
5.	公共交通機関の便利さ	-0.38	1.22
6.	公園や緑地の整備	0.31	0.76
7.	河川の整備	0.25	0.78
8.	上水道の整備	0.77	1.11
9.	下水道の整備	0.66	1.07
10.	ごみの減量・リサイクル等	0.39	0.96
11.	街並み景観の整備	0.05	0.76
12.	歴史文化・観光資源の整備	-0.01	0.63
13.	防災上の安全性	-0.06	1.24
14.	防犯上の安全性・治安	0.01	1.31
15.	医療機関の整備	-0.04	1.33
16.	福祉施設の整備	0.00	0.88
17.	子育て支援施設の整備	0.01	0.68
18.	保育施設の整備	0.12	0.64
19.	教育・文化施設の整備	-0.06	0.68
20.	スポーツ施設の整備	-0.11	0.47
21.	コミュニティ施設の整備	-0.06	0.50

問9 問8でお答えいただいた設問内容を総合的にみて、みなさんがお住まいの地区の生活環境についてどのように思われますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 満足である | 4. やや不満である |
| 2. やや満足である | 5. 不満である |
| 3. どちらとも言えない | |

- ・設問内容を総合的にみた、お住いの地区の生活環境については、満足と感じている割合は「やや満足である」36.7%、「満足である」10.1%となっており、約5割となっている。不満と感じている割合は「やや不満である」22.5%、「不満である」6.7%となっており、約3割となっている。
- ・年齢別でみると、10歳代、40～50歳代では「やや満足である」とともに「どちらとも言えない」が1位となっている。
- ・居住地別でみると、全ての地区で「やや満足である」が1位で3～4割となっている。2位では、第2地区以外「やや不満である」となっており、2～3割となっている。

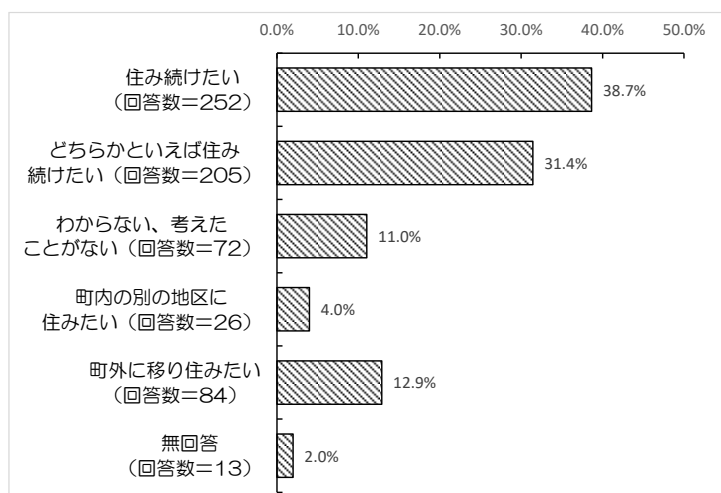


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		やや満足である	36.7%	やや不満である	22.5%	どちらとも言えない	21.5%
性別	男性	やや満足である	38.2%	やや不満である	22.9%	どちらとも言えない	20.6%
	女性	やや満足である	35.7%	どちらとも言えない やや不満である	22.8%	満足である	9.9%
年齢	10歳代	やや満足である どちらとも言えない	40.0%	満足である	20.0%	-	-
	20歳代	やや満足である	52.0%	やや不満である	28.0%	満足である	12.0%
	30歳代	やや満足である	38.9%	どちらとも言えない やや不満である	22.2%	満足である	11.1%
	40歳代	やや満足である どちらとも言えない	25.9%	やや不満である	24.1%	不満である	15.5%
	50歳代	やや満足である どちらとも言えない	28.3%	やや不満である	25.3%	満足である	10.1%
	60歳代	やや満足である	36.6%	やや不満である	26.2%	どちらとも言えない	22.8%
	70歳代以上	やや満足である	40.8%	やや不満である	19.9%	どちらとも言えない	19.1%
居住区	第1地区	やや満足である	35.3%	やや不満である	29.4%	どちらとも言えない	17.7%
	第2地区	やや満足である	42.7%	どちらとも言えない	23.2%	やや不満である	17.5%
	第3地区	やや満足である	35.2%	やや不満である	29.7%	どちらとも言えない	19.8%
	第4地区	やや満足である	32.4%	やや不満である	23.6%	どちらとも言えない	22.0%

問 10 あなたは、今後ともお住まいの地区に住み続けたいと思われていますか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 住み続けたい | 4. 町内の別の地区に住みたい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. 町外に移り住みたい |
| 3. わからない、考えたことがない | |

- ・ 今後も住み続けたいかについては、住み続けたいと感じている割合は「住み続けたい」38.7%、「どちらかといえば住み続けたい」31.4%となっており、約7割となっている。別の地区、町外に住みたいと感じている割合は「町内の別の地区に住みたい」4.0%、「町外に移り住みたい」12.9%となっており、約2割となっている。
- ・ 年齢別でみると、10歳代では「町外に移り住みたい」、20～50歳代では「どちらかといえば住み続けたい」、60歳代以上では「住み続けたい」が1位となっている。
- ・ 居住地別でみると、第2地区のみ「どちらかといえば住み続けたい」が1位となっている。「町外に移り住みたい」という意見については、第1地区、第2地区、第4地区で約1割となっている。

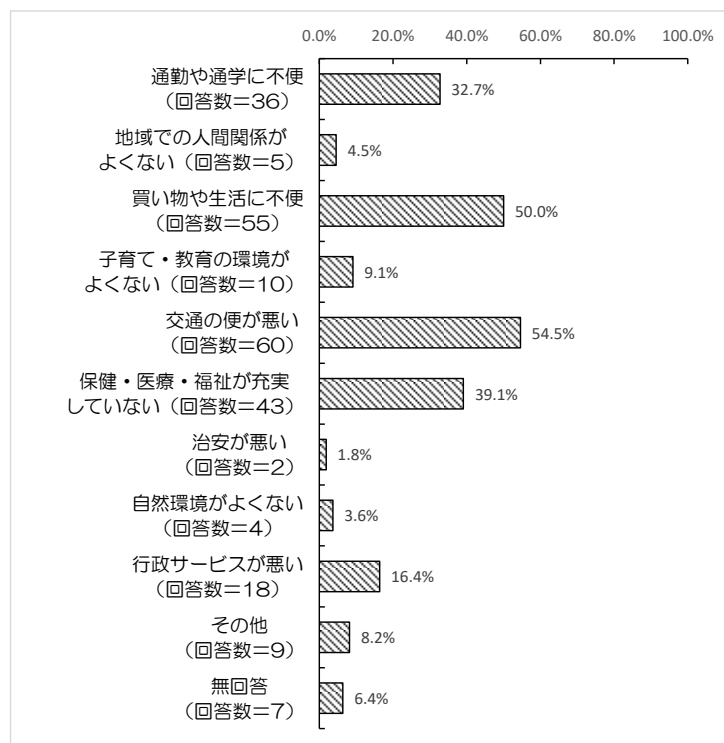


		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		住み続けたい	38.7%	どちらかといえば住み続けたい	31.4%	町外に移り住みたい	12.9%
性別	男 性	住み続けたい	43.5%	どちらかといえば住み続けたい	31.6%	町外に移り住みたい	10.3%
	女 性	住み続けたい	35.1%	どちらかといえば住み続けたい	31.5%	町外に移り住みたい	14.7%
年齢	10歳代	町外に移り住みたい	40.0%	住み続けたい どちらかといえば住み続けたい わからない、考えたことがない	20.0%	-	-
	20歳代	どちらかといえば住み続けたい	44.0%	わからない、考えたことがない	24.0%	町外に移り住みたい	16.0%
	30歳代	どちらかといえば住み続けたい	36.1%	町外に移り住みたい	27.8%	住み続けたい	19.4%
	40歳代	どちらかといえば住み続けたい	31.0%	住み続けたい	29.3%	町外に移り住みたい	24.1%
	50歳代	どちらかといえば住み続けたい	37.4%	住み続けたい	26.3%	町外に移り住みたい	16.2%
	60歳代	住み続けたい	42.1%	どちらかといえば住み続けたい	29.7%	わからない、考えたことがない 町外に移り住みたい	11.7%
	70歳代以上	住み続けたい	48.7%	どちらかといえば住み続けたい	29.6%	わからない、考えたことがない	9.0%
居住地	第1地区	住み続けたい	52.9%	どちらかといえば住み続けたい	26.5%	町外に移り住みたい	14.7%
	第2地区	どちらかといえば住み続けたい	37.8%	住み続けたい	34.6%	町外に移り住みたい	13.8%
	第3地区	住み続けたい	38.5%	どちらかといえば住み続けたい	23.1%	わからない、考えたことがない	14.3%
	第4地区	住み続けたい	40.5%	どちらかといえば住み続けたい	29.7%	町外に移り住みたい	12.4%

問 11 問 10 で「4」または「5」を回答した方にお聞きします。
 転居を希望する理由であてはまるものを3つ以内で選んでください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 通勤や通学に不便 | 6. 保健・医療・福祉が充実していない |
| 2. 地域での人間関係がよくない | 7. 治安が悪い |
| 3. 買い物や生活に不便 | 8. 自然環境がよくない |
| 4. 子育て・教育の環境がよくない | 9. 行政サービスが悪い |
| 5. 交通の便が悪い | 10. その他（ ） |

- ・転居を希望する理由については、「交通の便が悪い」が 54.5%で最も高く、ついで「買い物や生活に不便」が 50.0%、「保健・医療・福祉が充実していない」が 39.1%となっている。
- ・性別でみると、男性では「交通の便が悪い」が 52.3%、女性では「買い物や生活に不便」が 59.7%で1位となっている。
- ・年齢別でみると、40 歳代の1位は「通勤や通学に不便」で 13.8%、10 歳代でも「交通の便が悪い」とともに「通勤や通学に不便」が 40.0%で1位となっている。
- ・居住地別でみると、第2地区のみ「交通の便が悪い」が上位になっていなかったが、「買い物や生活に不便」「保健・医療・福祉が充実していない」「通勤や通学に不便」が全て約4割となっている。また、第3地区の1位である「交通の便が悪い」については約9割と非常に高い割合となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		交通の便が悪い	54.5%	買い物や生活に不便	50.0%	保健・医療・福祉が充実していない	39.1%
性別	男 性	交通の便が悪い	52.3%	買い物や生活に不便	40.9%	通勤や通学に不便	34.1%
	女 性	買い物や生活に不便	59.7%	交通の便が悪い	54.8%	保健・医療・福祉が充実していない	45.2%
年齢	10歳代	通勤や通学に不便 交通の便が悪い	40.0%	買い物や生活に不便	20.0%	-	-
	20歳代	買い物や生活に不便	20.0%	交通の便が悪い 保健・医療・福祉が充実していない	12.0%	通勤や通学に不便 行政サービスが悪い	8.0%
	30歳代	交通の便が悪い	19.4%	通勤や通学に不便 買い物や生活に不便 保健・医療・福祉が充実していない	16.7%	子育て・教育の環境がよくない	11.1%
	40歳代	通勤や通学に不便	13.8%	交通の便が悪い	10.3%	買い物や生活に不便 保健・医療・福祉が充実していない	8.6%
	50歳代	交通の便が悪い	15.2%	買い物や生活に不便	14.1%	保健・医療・福祉が充実していない	10.1%
	60歳代	交通の便が悪い	8.3%	通勤や通学に不便 買い物や生活に不便 保健・医療・福祉が充実していない	4.8%	行政サービスが悪い	2.1%
	70歳代以上	買い物や生活に不便	6.1%	交通の便が悪い	5.1%	保健・医療・福祉が充実していない	4.3%
居住区	第1地区	通勤や通学に不便 交通の便が悪い	60.0%	買い物や生活に不便	40.0%	-	-
	第2地区	買い物や生活に不便	42.5%	保健・医療・福祉が充実していない	40.0%	通勤や通学に不便	37.5%
	第3地区	交通の便が悪い	88.9%	買い物や生活に不便	61.1%	保健・医療・福祉が充実していない	27.8%
	第4地区	交通の便が悪い	61.4%	買い物や生活に不便	54.6%	保健・医療・福祉が充実していない	50.0%

【その他の記載】

- ・総合緊急医療施設がない
- ・道路が狭い、下水道がない
- ・樹木が荒れすぎ（空き家）
- ・真隣の生活音がうるさい
- ・シャッター通りが多い
- ・町民税が高い
- ・文化的生活がしたい
- ・今後が心配
- ・子供たちが埼玉に家建てた真鶴道路の通行止め

1. 緑や農地に囲まれた自然豊かな地区
2. 一戸建て住宅が建ち並び閑静な住宅地区
3. 商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区
4. 鉄道やバス等の交通の便が良い地区
5. 歴史を感じさせる落ち着いた地区
6. 防災・防犯対策の充実した安全な地区
7. 子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区
8. 美しい景観、個性的な街並みを有する心なごむ地区
9. 身近な地区や地域でのコミュニティ活動が盛んな地区
10. わからない
11. その他（

-
- | 理由 | 回答数 | 割合 |
|---------------------------|-----|-------|
| 緑や農地に囲まれた自然豊かな地区 | 76 | 11.7% |
| 一戸建て住宅が建ち並び閑静な住宅地区 | 52 | 8.0% |
| 商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区 | 196 | 30.1% |
| 鉄道やバス等の交通の便が良い地区 | 199 | 30.5% |
| 歴史を感じさせる落ち着いた地区 | 33 | 5.1% |
| 防災・防犯対策の充実した安全な地区 | 253 | 38.8% |
| 子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区 | 253 | 38.8% |
| 美しい景観、個性的な街並みを有する心なごむ地区 | 91 | 14.0% |
| 身近な地区や地域でのコミュニティ活動が盛んな地区 | 37 | 5.7% |
| わからない | 12 | 1.8% |
| その他 | 11 | 1.7% |
| 無回答 | 13 | 2.0% |

		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		防災・防犯対策の充実した安全な地区 子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	38.8%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	30.5%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	30.1%
性別	男 性	防災・防犯対策の充実した安全な地区	44.5%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	37.9%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	24.9%
	女 性	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	40.2%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	34.8%	防災・防犯対策の充実した安全な地区 商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	34.5%
年齢	10歳代	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	80.0%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	60.0%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	40.0%
	20歳代	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	36.0%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区 子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	32.0%	-	-
	30歳代	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	55.6%	防災・防犯対策の充実した安全な地区	38.9%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	27.8%
	40歳代	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	41.4%	防災・防犯対策の充実した安全な地区	37.9%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区 鉄道やバス等の交通の便が良い地区	34.5%
	50歳代	防災・防犯対策の充実した安全な地区	38.4%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	37.4%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	33.3%
	60歳代	防災・防犯対策の充実した安全な地区	46.2%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	37.2%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	29.7%
	70歳代以上	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	37.9%	防災・防犯対策の充実した安全な地区	37.2%	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	32.5%
居住区	第1地区	防災・防犯対策の充実した安全な地区	50.0%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	32.4%	緑や農地に囲まれた自然豊かな地区 鉄道やバス等の交通の便が良い地区	23.5%
	第2地区	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	43.9%	防災・防犯対策の充実した安全な地区	41.5%	商店や多様なサービス施設が立地する利便性の高い地区	37.0%
	第3地区	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	35.2%	緑や農地に囲まれた自然豊かな地区	30.8%	防災・防犯対策の充実した安全な地区 子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	29.7%
	第4地区	鉄道やバス等の交通の便が良い地区	41.3%	防災・防犯対策の充実した安全な地区	40.2%	子どもから高齢者、障害者が安心して暮らせる地区	37.5%

【その他の記載】

- ・木などのメンテナンスを行える地区に
- ・高齢者が多いので車を持っていない人は現在は住みよい地区とは言えない
- ・若い人々が住みたいと思える町仕事がある町みかん産業の復活収入が仕事にあった若い人がやりたいと思える仕組みづくりが必要
- ・交通の便が悪い
- ・道路を広く、狭すぎる
- ・洋服を買えるお店、手芸店もない
- ・公衆トイレ整備
- ・高齢者が多いのなら高齢者が集まる街にしちゃえば若者の増加にもつながるのでは？
- ・子育て世帯に便利な町になってほしい。子供用品が揃う店がない。

(1) 市街地のあり方について

-)

-
- A horizontal bar chart with a white background and a black border. The x-axis is at the top, labeled from 0.0% to 50.0% in 10.0% increments. The y-axis lists seven response categories. Each category has a corresponding horizontal bar with a diagonal hatching pattern. The percentage value for each bar is written to its right.
- | Response Category | Percentage |
|--------------------------------|------------|
| 市街地の拡大は抑えた方がよい (回答数=42) | 6.4% |
| 今ある市街地を充実させた方がよい (回答数=237) | 36.3% |
| 良好な開発であれば、多少は拡大してもよい (回答数=243) | 37.3% |
| 市街地の拡大や開発は自由でよい (回答数=48) | 7.4% |
| わからない (回答数=54) | 8.3% |
| その他 (回答数=9) | 1.4% |
| 無回答 (回答数=19) | 2.9% |

		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	37.3%	今ある市街地を充実させた方がよい	36.3%	わからない	8.3%
性別	男 性	今ある市街地を充実させた方がよい	36.9%	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	35.9%	市街地の拡大は抑えた方がよい	9.3%
	女 性	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	39.3%	今ある市街地を充実させた方がよい	36.9%	わからない	9.6%
年齢	10歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	60.0%	今ある市街地を充実させた方がよい わからない	20.0%	-	-
	20歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	40.0%	今ある市街地を充実させた方がよい	32.0%	わからない	20.0%
	30歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	47.2%	今ある市街地を充実させた方がよい	33.3%	市街地の拡大や開発は自由でよい	8.3%
	40歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	43.1%	今ある市街地を充実させた方がよい	31.0%	市街地の拡大や開発は自由でよい	8.6%
	50歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	37.4%	今ある市街地を充実させた方がよい	34.3%	わからない	8.1%
	60歳代	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	40.7%	今ある市街地を充実させた方がよい	35.2%	市街地の拡大や開発は自由でよい	8.3%
	70歳代以上	今ある市街地を充実させた方がよい	40.4%	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	32.9%	わからない	8.3%
居住区	第1地区	今ある市街地を充実させた方がよい	32.4%	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	29.4%	市街地の拡大は抑えた方がよい 市街地の拡大や開発は自由でよい	14.7%
	第2地区	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	41.1%	今ある市街地を充実させた方がよい	34.6%	市街地の拡大や開発は自由でよい わからない	8.1%
	第3地区	今ある市街地を充実させた方がよい	40.7%	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	34.1%	市街地の拡大は抑えた方がよい	11.0%
	第4地区	今ある市街地を充実させた方がよい	37.5%	良好な開発であれば、多少は拡大してもよい	37.1%	わからない	9.7%

【その他の記載】

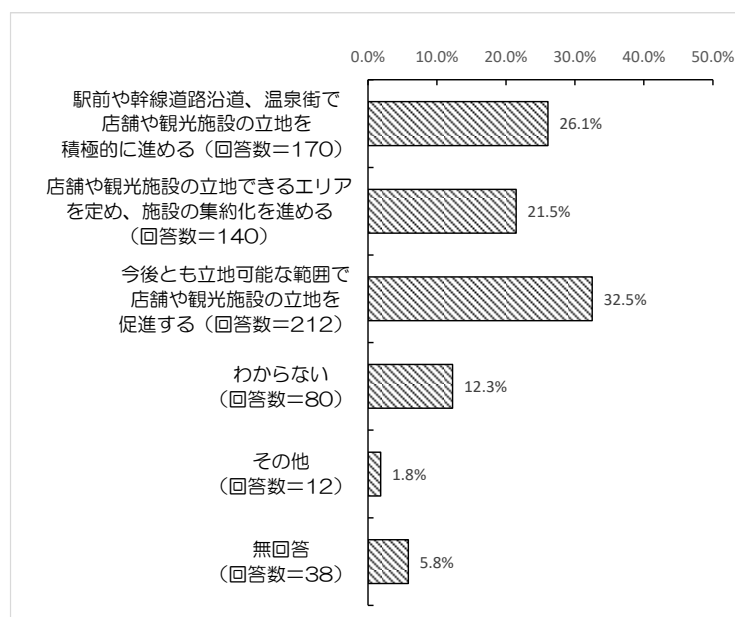
- ・何十年も休農地を何とかしてほしい
- ・温泉街に再びすればよい。30年前の豊かである町、今あるものを生かせばよい
- ・外国人が隣近所に住むのは嫌だ
- ・子供中心にまちづくり
- ・まちづくりの情報がないので何とも言えない
- ・道の駅計画はどうなったのか。
- ・田舎すぎて何も望まない

(2) 市街地内の商業地のあり方について

1. 駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める
2. 店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める
3. 今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する
4. わからない
5. その他（

）

- ・市街地内の商業地のあり方については、「今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する」が 32.9%で最も高く、ついで「駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める」が 26.1%となっている。
- ・年齢別でみると、30 歳代のみ「駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める」が 41.7%で 1 位となっている。
- ・居住地別でみると、第 2 地区については「今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する」とともに「駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める」が 32.1%で 1 位となっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	32.5%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	26.1%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	21.5%
性別	男 性	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	33.2%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	26.3%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	24.3%
	女 性	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	33.0%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	26.1%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	19.8%
年齢	10歳代	わからない	40.0%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める 今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	20.0%	-	-
	20歳代	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	36.0%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	32.0%	わからない	24.0%
	30歳代	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	41.7%	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	30.6%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	22.2%
	40歳代	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	31.0%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	25.9%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	24.1%
	50歳代	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	37.4%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	30.3%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	16.2%
	60歳代	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	40.0%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	25.5%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	22.8%
	70歳代以上	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	28.2%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	23.8%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	22.7%
居住区	第1地区	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	41.2%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める 店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	20.6%	わからない	11.8%
	第2地区	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める 今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	32.1%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	22.8%	わからない	7.3%
	第3地区	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	27.5%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	25.3%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	19.8%
	第4地区	今後とも立地可能な範囲で店舗や観光施設の立地を促進する	34.4%	駅前や幹線道路沿道、温泉街で店舗や観光施設の立地を積極的に進める	21.6%	店舗や観光施設の立地できるエリアを定め、施設の集約化を進める	20.9%

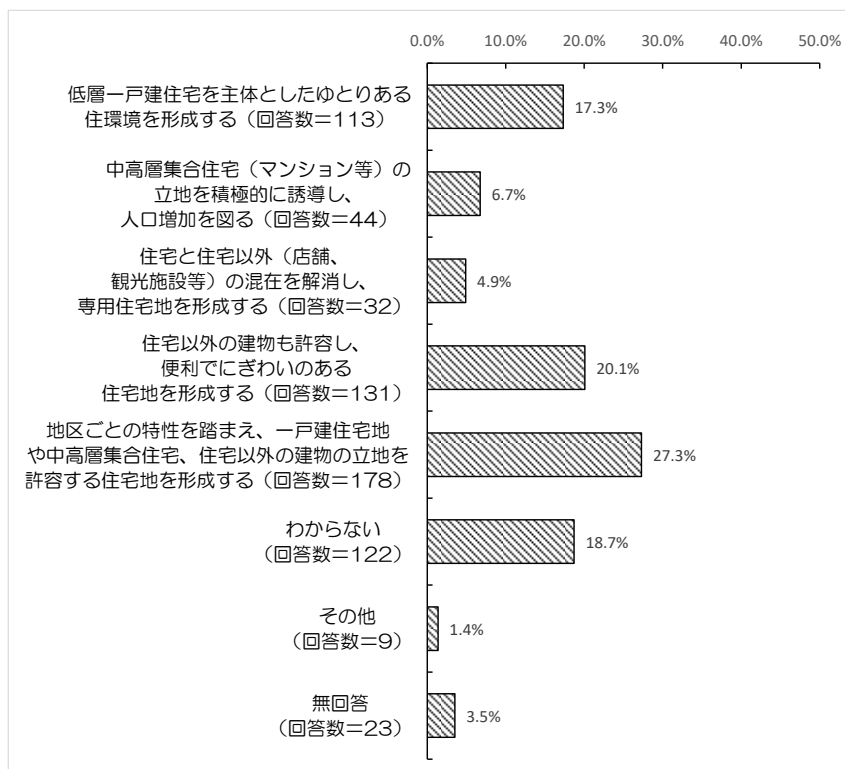
【その他の記載】

- ・足湯などのだれでも楽しめる場を設ける
- ・アメリカ軍基地を作った方がいい、人口増加する
- ・書店が欲しい
- ・現存している駅前や温泉場を再考すべき。
- ・商業施設はある程度まとまったエリアに立地するのが好ましいと考えますが、隠れ家的施設の魅力での集客もあると思います。立地エリアを定めてしまうと自宅での営業ができないなどの可能性もあります。
- ・国道沿いのパチンコ屋はカラオケ・衣料品・ツタヤ等にな変わって欲しい。

（３）市街地内の住宅地のあり方について

1. 低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する
2. 中高層集合住宅（マンション等）の立地を積極的に誘導し、人口増加を図る
3. 住宅と住宅以外（店舗、観光施設等）の混在を解消し、専用住宅地を形成する
4. 住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する
5. 地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する
6. わからない
7. その他（ ）

- ・市街地内の住宅地のあり方については、「地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する」が 27.3%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、30 歳代では「わからない」が最も回答されていた。「わからない」という回答については、40～50 歳代、70 歳代以上でも約 2 割回答されている。
- ・居住地別でみると、第 2 地区、第 3 地区では「地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する」が 1 位となっているが、第 1 地区、第 3 地区では「住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する」が 1 位となっている。また第 1 地区については「低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する」についても 1 位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	27.3%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	20.1%	わからない	18.7%
性別	男性	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	30.9%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	19.3%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	18.6%
	女性	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	25.2%	わからない	22.5%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	20.7%
年齢	10歳代	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	40.0%	中高層集合住宅（マンション等）の立地を積極的に誘導し、人口増加を図る住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	20.0%	-	-
	20歳代	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	36.0%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	24.0%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	16.0%
	30歳代	わからない	33.3%	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	25.0%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	13.9%
	40歳代	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	25.9%	わからない	20.7%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	19.0%
	50歳代	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	30.3%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	22.2%	わからない	20.2%
	60歳代	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	28.3%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	19.3%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する	15.2%
	70歳代以上	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	26.0%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	22.7%	わからない	18.4%
居住区	第1地区	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する 住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	23.5%	中高層集合住宅（マンション等）の立地を積極的に誘導し、人口増加を図る地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	14.7%	わからない	11.8%
	第2地区	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	33.3%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	19.9%	わからない	15.9%
	第3地区	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	23.1%	低層一戸建住宅を主体としたゆとりある住環境を形成する 地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	22.0%	わからない	20.9%
	第4地区	地区ごとの特性を踏まえ、一戸建住宅地や中高層集合住宅、住宅以外の建物の立地を許容する住宅地を形成する	26.3%	わからない	22.0%	住宅以外の建物も許容し、便利でにぎわいのある住宅地を形成する	18.2%

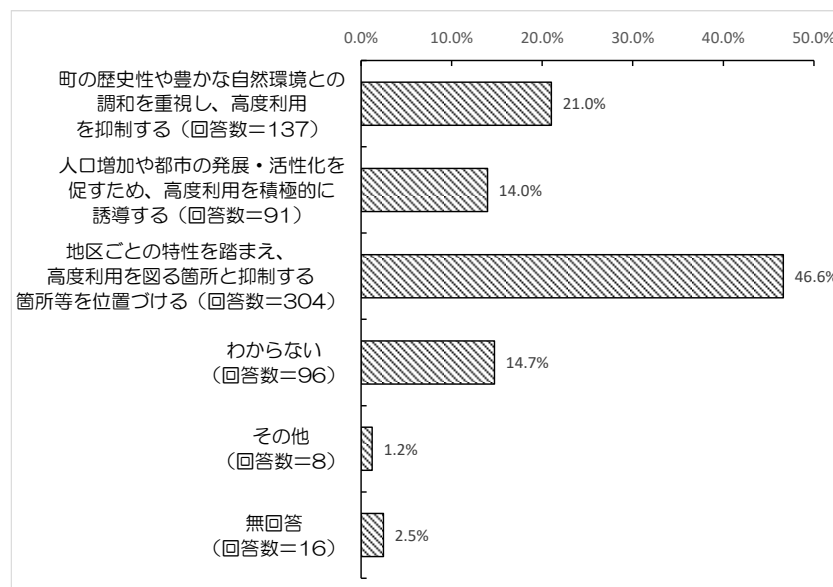
【その他の記載】

- ・歩いていける距離で各施設にアクセスできるような住宅地を目指す。
- ・若年層が移住しやすい住宅にする。
- ・一戸建てでもマンションでもどちらでもよい、空き地や空き家の有効活用。
- ・高層物は必要ない。都会に近い田舎をおして町を成立させると人が増える。
- ・空き家のリノベーション。
- ・シャッター街になりつつある、空き家やオープンしていないが駅前にいる人に居住サポートし、駅前活性化してほしい
- ・住民のためのものに
- ・空き店舗がもったいない。
- ・人口減少を考えた策が必要

（４）土地の高度利用（中高層建築物の立地）のあり方について

1. 町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する
2. 人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する
3. 地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける
4. わからない
5. その他（ ）

- ・土地の高度利用のあり方については、「地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける」が46.6%で最も高くなっている。
- ・年齢別でみると、10 歳代のみ「町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する」が60.0%で1位となっている。
- ・居住地別でみると、第2地区の3位では「人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する」が15.0%となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	46.6%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	21.0%	わからない	14.7%
性別	男性	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	49.2%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	19.6%	人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する	15.3%
	女性	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	45.7%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	21.6%	わからない	15.6%
年齢	10歳代	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	60.0%	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	40.0%	-	-
	20歳代	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	36.0%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	28.0%	わからない	20.0%
	30歳代	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	50.0%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	22.2%	人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する	16.7%
	40歳代	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	56.9%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する 人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する	15.5%	わからない	12.1%
	50歳代	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	49.5%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	25.3%	わからない	14.1%
	60歳代	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	54.5%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	16.6%	人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する	13.1%
	70歳代以上	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	40.8%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	20.9%	わからない	17.7%
居住区	第1地区	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	35.3%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	26.5%	わからない	20.6%
	第2地区	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	48.4%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	19.5%	人口増加や都市の発展・活性化を促すため、高度利用を積極的に誘導する	15.0%
	第3地区	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	42.9%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	23.1%	わからない	17.6%
	第4地区	地区ごとの特性を踏まえ、高度利用を図る箇所と抑制する箇所等を位置づける	48.3%	町の歴史性や豊かな自然環境との調和を重視し、高度利用を抑制する	20.9%	わからない	15.4%

【その他の記載】

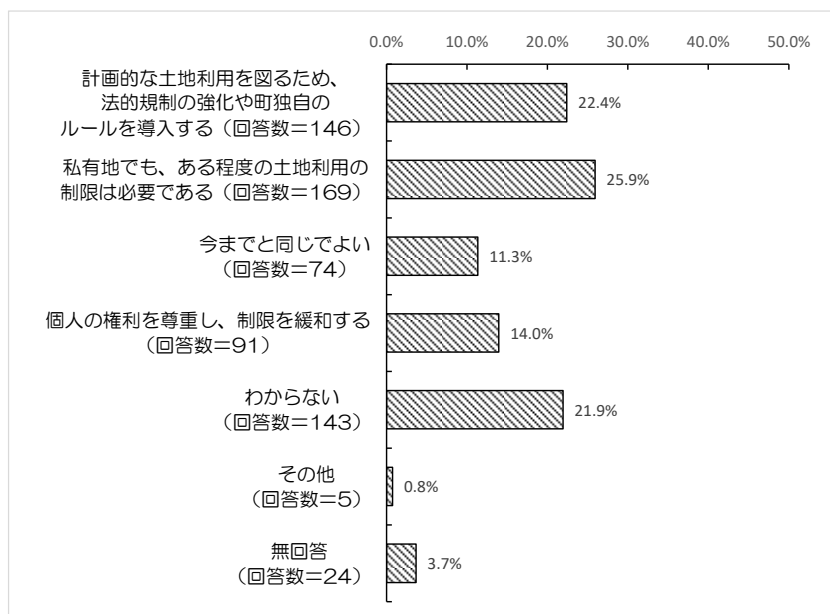
- ・ 外部からの企業、工場を移設導入して、湯河原に働く場を増やす。そのために工業用地を増やし、町の税収を増加させたい。
- ・ 介護施設の充実
- ・ 今のままでいい
- ・ どちらでもいい

(5) 土地利用のルール（規制・誘導）のあり方について

1. 計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する
2. 私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である
3. 今までと同じでよい
4. 個人の権利を尊重し、制限を緩和する
5. わからない
6. その他（

）

- ・土地利用のルールのあり方については、「私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である」が 25.9%で最も高く、ついで「計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する」が 22.4%となっている。
- ・性別でみると、男性は「私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である」が 27.6% 回答されている一方で、女性は「わからない」が 26.1%と最も回答されていた。
- ・年齢別でみると、10～20 歳代の 2 位では「今までと同じでよい」が約 2 割となっている。その他、30 歳代の 3 位についても「個人の権利を尊重し、制限を緩和する」とともに「今までと同じでよい」が約 1 割と回答されている。
- ・居住地別でみると、第 1 地区については「私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である」とともに「計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する」が 26.5%で 1 位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	25.9%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	22.4%	わからない	21.9%
性別	男 性	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	27.6%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	22.3%	個人の権利を尊重し、制限を緩和する	17.3%
	女 性	わからない	26.1%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	25.5%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	22.8%
年齢	10歳代	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する わからない	40.0%	今までと同じでよい	20.0%	-	-
	20歳代	わからない	44.0%	今までと同じでよい	24.0%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	16.0%
	30歳代	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	33.3%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である わからない	22.2%	今までと同じでよい 個人の権利を尊重し、制限を緩和する	11.1%
	40歳代	わからない	31.0%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	25.9%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	19.0%
	50歳代	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	30.3%	わからない	25.3%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	24.2%
	60歳代	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	26.9%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	22.8%	わからない	22.1%
	70歳代以上	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	28.5%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	19.9%	わからない	16.6%
居住区	第1地区	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する 私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	26.5%	個人の権利を尊重し、制限を緩和する	17.7%	今までと同じでよい わからない	14.7%
	第2地区	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	26.8%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	25.6%	わからない	20.7%
	第3地区	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	29.7%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	24.2%	今までと同じでよい 個人の権利を尊重し、制限を緩和する	14.3%
	第4地区	わからない	28.2%	私有地でも、ある程度の土地利用の制限は必要である	24.7%	計画的な土地利用を図るため、法的規制の強化や町独自のルールを導入する	17.8%

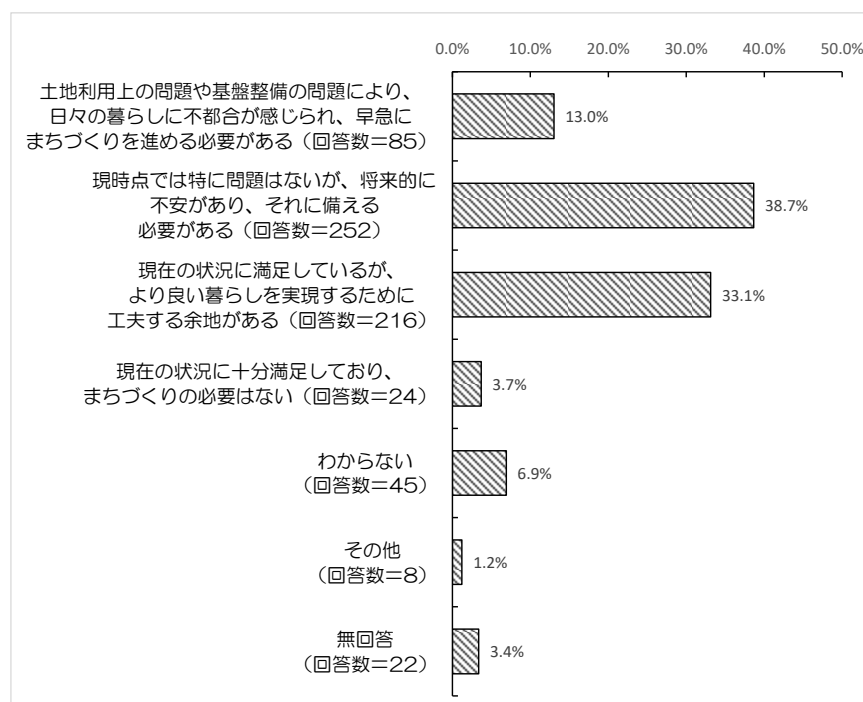
【その他の記載】

- ・道路ががたがたなので舗装してほしい
- ・自由でいい
- ・規制は緩くすべき
- ・民泊の規制・強化

問 14 あなたは、お住まいの地区における今後のまちづくりについて、どのように思われますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある
2. 現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある
3. 現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある
4. 現在の状況に十分満足しており、まちづくりの必要はない
5. わからない
6. その他（ ）

- ・今後のまちづくりについては、「現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある」が 38.7%で最も高く、ついで「現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある」が 33.1%、となっている。
- ・年齢別でみると、10 歳代、70 歳代以上では「現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある」が 1 位で約 4 割、20～60 歳代では「現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある」が 1 位で 4～5 割となっている。
- ・居住地別でみると、第 1 地区については「現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある」の割合が 44.1%で最も高くなっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	38.7%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	33.1%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	13.0%
性別	男 性	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	37.2%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	33.6%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	14.3%
	女 性	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	40.5%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	33.9%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	12.0%
年 齢	10歳代	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	40.0%	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある わからない	20.0%	-	-
	20歳代	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	48.0%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	32.0%	わからない	16.0%
	30歳代	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	41.7%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	33.3%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	13.9%
	40歳代	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	39.7%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	25.9%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	22.4%
	50歳代	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	45.5%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	32.3%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	14.1%
	60歳代	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	40.7%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	32.4%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	15.9%
	70歳代以上	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	35.4%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	34.7%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	10.1%
居住区	第1地区	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	44.1%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	26.5%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	20.6%
	第2地区	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	39.4%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	33.3%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	12.2%
	第3地区	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	39.6%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	30.8%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	13.2%
	第4地区	現時点では特に問題はないが、将来的に不安があり、それに備える必要がある	37.5%	現在の状況に満足しているが、より良い暮らしを実現するために工夫する余地がある	34.4%	土地利用上の問題や基盤整備の問題により、日々の暮らしに不都合が感じられ、早急にまちづくりを進める必要がある	12.7%

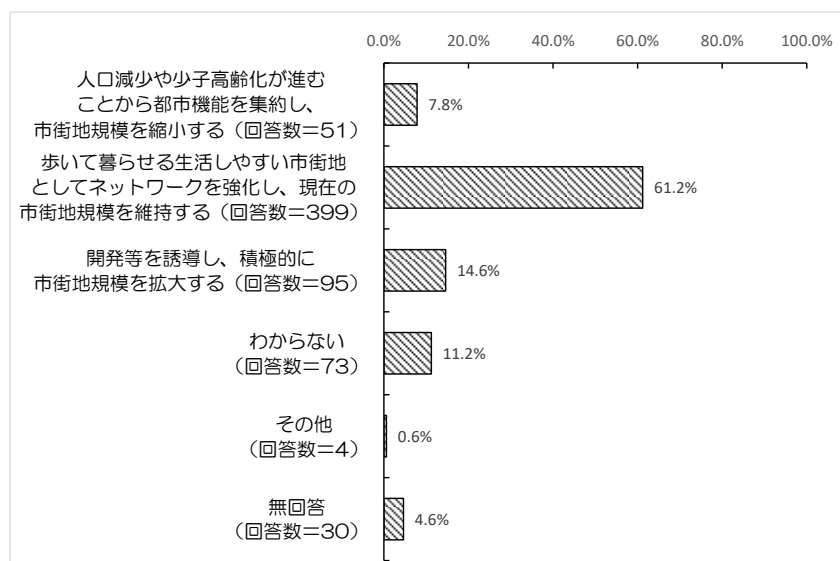
【その他の記載】

- ・車のはいれる道路整備
- ・大雨が降るたびに土砂災害に合うのをやめてほしい
- ・石垣が崩れそうで怖い
- ・空き家が増えているのが気になる
- ・耕作放棄地が無駄
- ・文化レベルが低い、行政の関心が低い
- ・防災対策が不安
- ・企業を呼べるまちづくり

問 15 あなたは、湯河原町における今後の市街地の規模について、どのように思われますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 人口減少や少子高齢化が進むことから都市機能を集約し、市街地規模を縮小する
2. 歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する
3. 開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する
4. わからない
5. その他（ ）

- ・今後の市街地規模については、「歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する」が61.2%と最も高くなっている。
- ・性別、年齢別、居住地別でみると、10歳代のみ「歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する」とともに「開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する」が40.0%で1位となっている。その他、全ての回答者層で「歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する」は1位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	61.2%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	14.6%	わからない	11.2%
性別	男 性	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	61.1%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	15.6%	わからない	11.0%
	女 性	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	62.5%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	13.8%	わからない	11.1%
年齢	10歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する 開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	40.0%	わからない	20.0%	-	-
	20歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	68.0%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する わからない	12.0%	人口減少や少子高齢化が進むことから都市機能を集約し、市街地規模を縮小する	8.0%
	30歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	47.2%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	22.2%	人口減少や少子高齢化が進むことから都市機能を集約し、市街地規模を縮小する	16.7%
	40歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	58.6%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	27.6%	わからない	8.6%
	50歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	62.6%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	13.1%	人口減少や少子高齢化が進むことから都市機能を集約し、市街地規模を縮小する	10.1%
	60歳代	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	52.4%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	18.6%	わからない	15.2%
	70歳代以上	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	67.2%	わからない	10.1%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	9.4%
居住区	第1地区	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	67.7%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	14.7%	わからない	11.8%
	第2地区	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	62.6%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	13.8%	わからない	10.2%
	第3地区	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	52.8%	わからない	18.7%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	14.3%
	第4地区	歩いて暮らせる生活しやすい市街地としてネットワークを強化し、現在の市街地規模を維持する	63.3%	開発等を誘導し、積極的に市街地規模を拡大する	15.4%	わからない	10.0%

【その他の記載】

- ・今のままでいい
- ・いずれなくなる町と言われているが、どうにもできない。
- ・区画整理地以外に山などを削ることが多い。反対です。
- ・過疎が進み、機能していない市街地を整備（縮小）し、将来に向けての新市街地を作る。

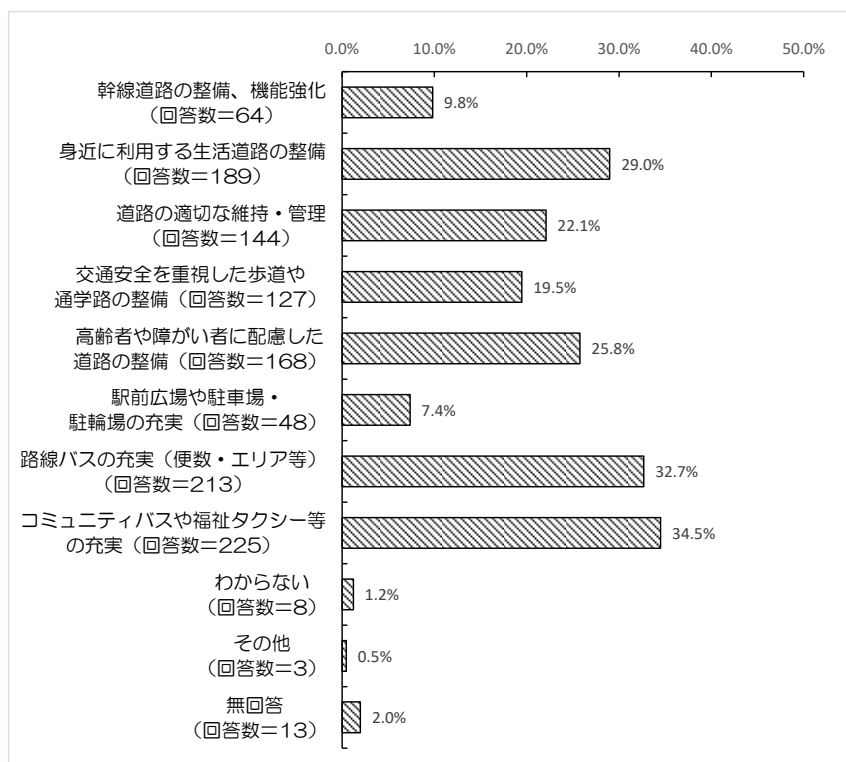
問 16 あなたは、湯河原町における今後の都市づくりの取り組みとして、重要なものもしくは優先性の高いものについてどのように思われますか。

次の各項目について、それぞれあてはまるものを2つ以内で選んでください。

(1) 交通体系について

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 幹線道路の整備、機能強化 | |
| 2. 身近に利用する生活道路の整備 | |
| 3. 道路の適切な維持・管理 | |
| 4. 交通安全を重視した歩道や通学路の整備 | |
| 5. 高齢者や障がい者に配慮した道路の整備 | |
| 6. 駅前広場や駐車場・駐輪場の充実 | |
| 7. 路線バスの充実（便数・エリア等） | |
| 8. コミュニティバスや福祉タクシー等の充実 | |
| 9. わからない | |
| 10. その他（ | ） |

- ・交通体系については、「コミュニティバスや福祉タクシー等の充実」が 34.5%で最も高く、ついで「路線バスの充実（便数・エリア等）」が 32.7%、「身近に利用する生活道路の整備」が 29.0%となっている。
- ・年齢別でみると、10 歳代の「路線バスの充実（便数・エリア等）」が 80.0%と非常に高くなっている。
- ・居住地別でみると、第3地区のみ「路線バスの充実（便数・エリア等）」が 47.3%で1位となっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	34.5%	路線バスの充実（便数・エリア等）	32.7%	身近に利用する生活道路の整備	29.0%
性別	男 性	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	35.9%	身近に利用する生活道路の整備	28.9%	路線バスの充実（便数・エリア等）	28.2%
	女 性	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	33.9%	路線バスの充実（便数・エリア等）	36.6%	身近に利用する生活道路の整備	29.4%
年齢	10歳代	路線バスの充実（便数・エリア等）	80.0%	道路の適切な維持・管理	40.0%	交通安全を重視した歩道や通学路の整備	20.0%
	20歳代	身近に利用する生活道路の整備	52.0%	交通安全を重視した歩道や通学路の整備	32.0%	高齢者や障がい者に配慮した道路の整備	24.0%
	30歳代	身近に利用する生活道路の整備	41.7%	道路の適切な維持・管理	30.6%	路線バスの充実（便数・エリア等）	25.0%
	40歳代	路線バスの充実（便数・エリア等） コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	37.9%	交通安全を重視した歩道や通学路の整備	34.5%	身近に利用する生活道路の整備	19.0%
	50歳代	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	40.4%	路線バスの充実（便数・エリア等）	38.4%	高齢者や障がい者に配慮した道路の整備	24.2%
	60歳代	身近に利用する生活道路の整備	38.6%	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	30.3%	路線バスの充実（便数・エリア等）	29.7%
	70歳代以上	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	39.0%	路線バスの充実（便数・エリア等）	32.5%	高齢者や障がい者に配慮した道路の整備	32.1%
居住区	第1地区	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	32.4%	道路の適切な維持・管理 路線バスの充実（便数・エリア等）	29.4%	身近に利用する生活道路の整備	26.5%
	第2地区	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	33.3%	高齢者や障がい者に配慮した道路の整備	30.1%	交通安全を重視した歩道や通学路の整備	25.6%
	第3地区	路線バスの充実（便数・エリア等）	47.3%	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	38.5%	身近に利用する生活道路の整備	28.6%
	第4地区	コミュニティバスや福祉タクシー等の充実	36.3%	路線バスの充実（便数・エリア等）	35.5%	身近に利用する生活道路の整備	33.2%

【その他の記載】

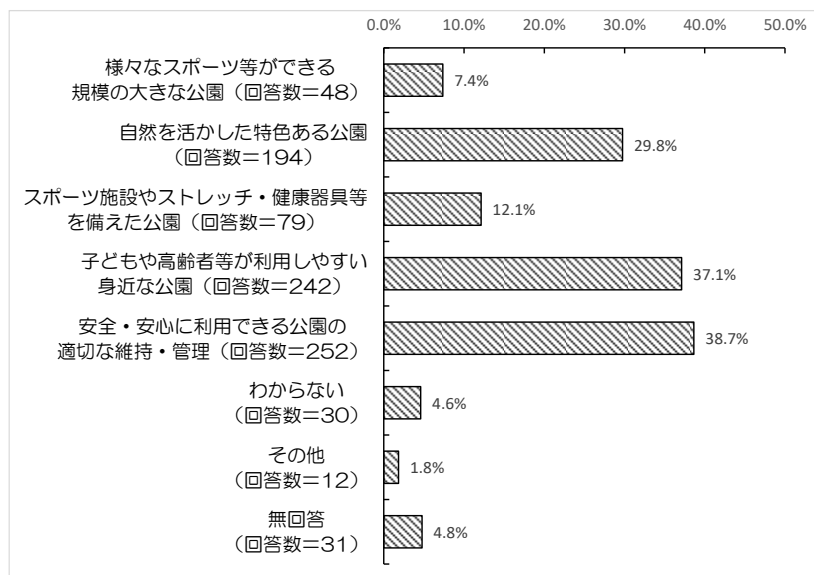
- ・今のままでいい
- ・JRの本数を増やす

(2) 公園・緑地について

1. 様々なスポーツ等ができる規模の大きな公園
2. 自然を活かした特色ある公園
3. スポーツ施設やストレッチ・健康器具等を備えた公園
4. 子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園
5. 安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理
6. わからない
7. その他（

）

- ・公園・緑地については、「安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理」が 38.7%で最も高く、ついで「子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園」が 37.1%、「自然を活かした特色ある公園」が 29.8%となっている。
- ・年齢別でみると、10 歳代では「安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理」「自然を活かした特色ある公園」とともに「様々なスポーツ等ができる規模の大きな公園」「スポーツ施設やストレッチ・健康器具等を備えた公園」が 1 位となっている。40 歳代では「自然を活かした特色ある公園」が 39.7%で 1 位となっている。
- ・居住地別でみると、第 1 地区、第 4 地区では「安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理」、第 2 地区、第 3 地区では「子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園」が 1 位で、いずれも約 4 割となっている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	38.7%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	37.1%	自然を活かした特色ある公園	29.8%
性別	男 性	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	37.2%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	35.6%	自然を活かした特色ある公園	31.2%
	女 性	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	42.0%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	39.0%	自然を活かした特色ある公園	28.5%
年齢	10歳代	様々なスポーツ等ができる規模の大きな公園 自然を活かした特色ある公園 スポーツ施設やストレッチ・健康器具等を備えた公園 安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	40.0%	-	-	-	-
	20歳代	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	40.0%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	36.0%	自然を活かした特色ある公園	32.0%
	30歳代	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	52.8%	自然を活かした特色ある公園	36.1%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	33.3%
	40歳代	自然を活かした特色ある公園	39.7%	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	36.2%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	24.1%
	50歳代	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	41.4%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	38.4%	自然を活かした特色ある公園	27.3%
	60歳代	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	44.1%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	33.8%	自然を活かした特色ある公園	33.1%
	70歳代以上	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	33.9%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	42.2%	自然を活かした特色ある公園	25.6%
居住区	第1地区	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	41.2%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	35.3%	自然を活かした特色ある公園	26.5%
	第2地区	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	41.9%	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	39.0%	自然を活かした特色ある公園	30.9%
	第3地区	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	41.8%	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	38.5%	自然を活かした特色ある公園	27.5%
	第4地区	安全・安心に利用できる公園の適切な維持・管理	39.0%	子どもや高齢者等が利用しやすい身近な公園	32.4%	自然を活かした特色ある公園	29.7%

【その他の記載】

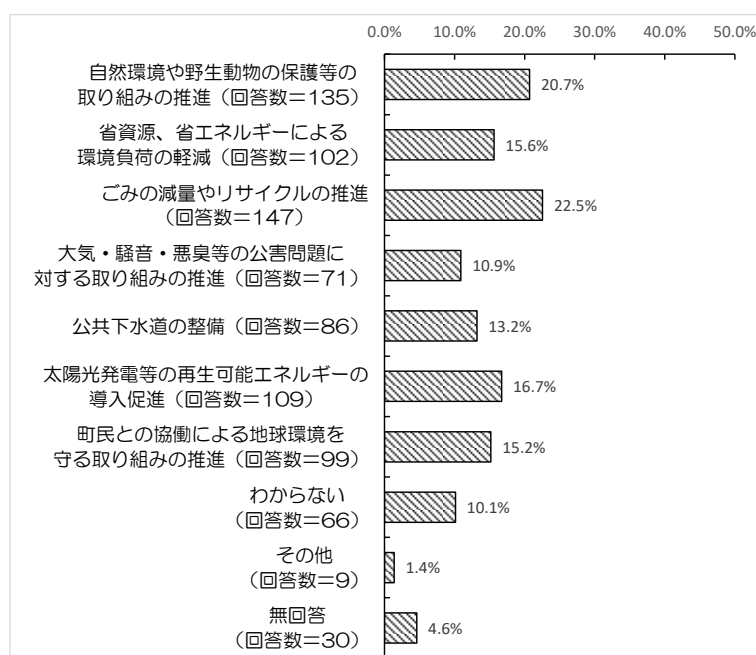
- ・夏は日陰がない。樹木があり、ベンチがある公園
- ・不要な公園の廃止を検討してほしい
- ・現状汚すぎる。数を減らしてでもしっかり整備
- ・緑豊かであるだけで癒される公園
- ・公園の多い街なので「1～4」それぞれ公園ごとに特化した公園にすればよい。
夏は日よけが少なく午前中はほとんど人がいない
- ・公園は利用しない
- ・今のままでいい
- ・現状のままでいい

(3) 環境との共生について

1. 自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進
2. 省資源、省エネルギーによる環境負荷の軽減
3. ごみの減量やリサイクルの推進
4. 大気・騒音・悪臭等の公害問題に対する取り組みの推進
5. 公共下水道の整備
6. 太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進
7. 町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進
8. わからない
9. その他（

）

- ・環境との共生については、「ごみの減量やリサイクルの推進」が 22.5%で最も高く、ついで「自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進」が 20.7%となっている。
- ・性別でみると、男性では「自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進」が 21.3%、女性では「ごみの減量やリサイクルの推進」が 26.4%となっている。3位には男性が「太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進」、女性が「町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進」でともに約2割回答されている。
- ・年齢別でみると、40歳代では「公共下水道の整備」31.0%、70歳代では「ごみの減量やリサイクルの推進」が27.8%で1位となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区、第4地区では「自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進」、第2地区では「ごみの減量やリサイクルの推進」、第3地区では「ごみの減量やリサイクルの推進」とともに「公共下水道の整備」が1位となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		ごみの減量やリサイクルの推進	22.5%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	20.7%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	16.7%
性別	男 性	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	21.3%	ごみの減量やリサイクルの推進	19.6%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	18.6%
	女 性	ごみの減量やリサイクルの推進	26.4%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	19.5%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	16.2%
年齢	10歳代	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	60.0%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	40.0%	-	-
	20歳代	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	32.0%	ごみの減量やリサイクルの推進 大気・騒音・悪臭等の公害問題に対する取り組みの推進	28.0%	省資源、省エネルギーによる環境負荷の軽減	24.0%
	30歳代	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	33.3%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	27.8%	省資源、省エネルギーによる環境負荷の軽減	19.4%
	40歳代	公共下水道の整備	31.0%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	24.1%	省資源、省エネルギーによる環境負荷の軽減 公共下水道の整備	20.7%
	50歳代	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	30.3%	ごみの減量やリサイクルの推進	20.2%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	15.2%
	60歳代	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	20.0%	ごみの減量やリサイクルの推進	19.3%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	17.2%
	70歳代以上	ごみの減量やリサイクルの推進	27.8%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	18.4%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進 町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	14.1%
居住区	第1地区	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	23.5%	公共下水道の整備	20.6%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	17.7%
	第2地区	ごみの減量やリサイクルの推進	27.2%	太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進	19.5%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	19.1%
	第3地区	ごみの減量やリサイクルの推進 公共下水道の整備	20.9%	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	19.8%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	18.7%
	第4地区	自然環境や野生動物の保護等の取り組みの推進	22.8%	ごみの減量やリサイクルの推進	20.1%	町民との協働による地球環境を守る取り組みの推進	17.8%

【その他の記載】

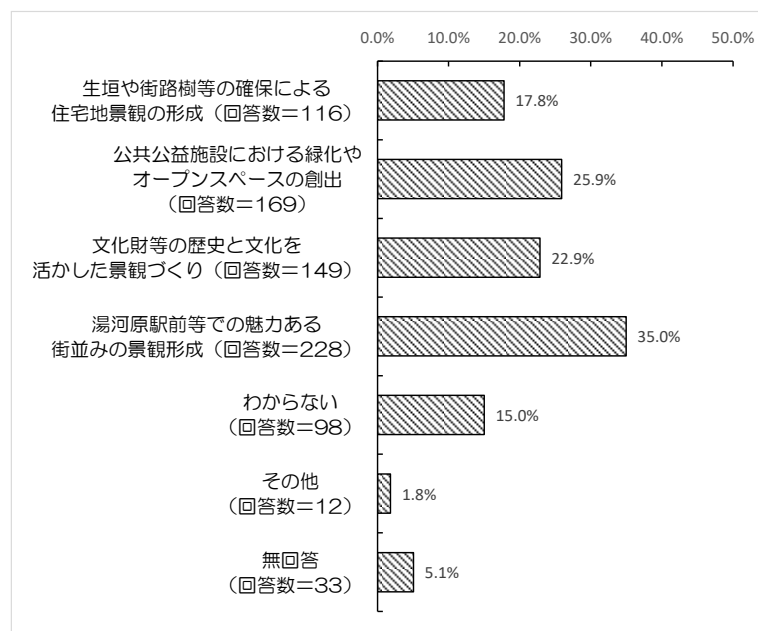
- ・ 高齢化による農地、樹木のメンテナンスの必要性
- ・ サル対策猪対策
- ・ サル何とかしてほしい
- ・ 猿害を止めてほしい
- ・ 風を利用した風力発電
- ・ 野生動物による害の対策
- ・ 猿害が問題になっているが長野県の地獄谷野猿公苑を見習うといい。
- ・ 特にどうでもよい

(4) 景観について

1. 生垣や街路樹等の確保による住宅地景観の形成
2. 公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出
3. 文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり
4. 湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成
5. わからない
6. その他（

）

- ・ 景観については、「湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成」が 35.0%で最も高く、ついで「公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出」が 25.9%となっている。
- ・ 年齢別でみると、20 歳代では「湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成」とともに「文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり」、30 歳代では「湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成」とともに「公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出」が約4割で1位となっている。
- ・ 居住地別でみると、第1地区、第3地区では「文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり」、第2地区、第4地区では「公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出」が2位で、いずれも約2～3割となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	35.0%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	25.9%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	22.9%
性別	男性	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	32.2%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	27.2%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	24.9%
	女性	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	38.1%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	24.6%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	21.6%
年齢	10歳代	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成 わからない	40.0%	生垣や街路樹等の確保による住宅地景観の形成 公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出 文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	20.0%	-	-
	20歳代	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり 湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	40.0%	生垣や街路樹等の確保による住宅地景観の形成	28.0%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	24.0%
	30歳代	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出 湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	36.1%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	27.8%	生垣や街路樹等の確保による住宅地景観の形成	19.4%
	40歳代	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	41.4%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	29.3%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	25.9%
	50歳代	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	37.4%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	29.3%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	18.2%
	60歳代	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	37.9%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	29.0%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	23.5%
	70歳代以上	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	31.1%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	24.6%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	19.1%
居住区	第1地区	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	41.2%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	26.5%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	20.6%
	第2地区	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	39.8%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	26.8%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	22.8%
	第3地区	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	34.1%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	22.0%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出 わからない	19.8%
	第4地区	湯河原駅前等での魅力ある街並みの景観形成	30.1%	公共公益施設における緑化やオープンスペースの創出	28.2%	文化財等の歴史と文化を活かした景観づくり	23.9%

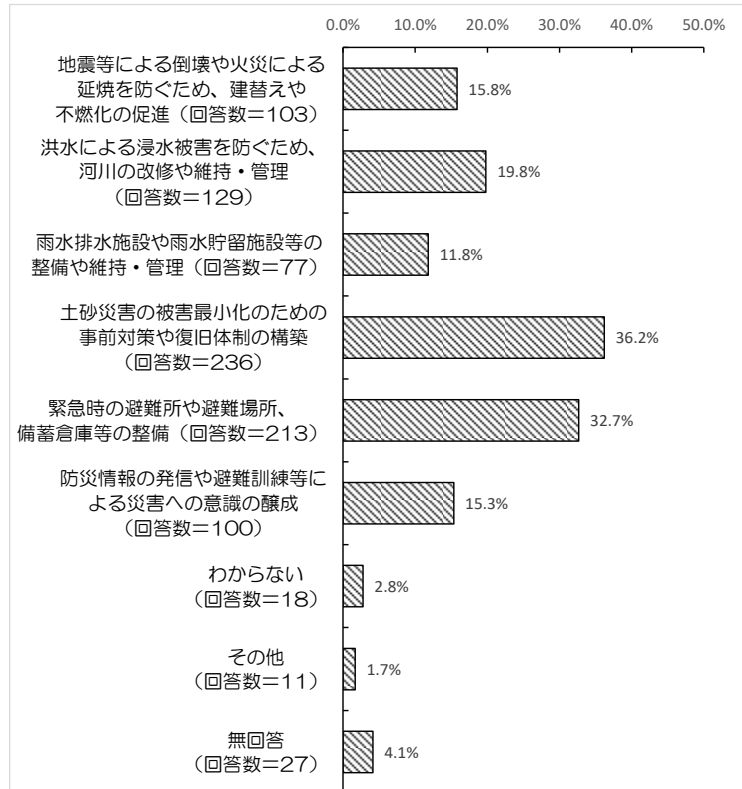
【その他の記載】

- ・創出より荒廃対策
- ・駅前だけの（周辺）の景観形成では町内全体にはとどかない
- ・センスのある景観の形成
- ・街路樹が伸び車からの見通しが悪くなっている所がある。ミカンの木も一本でいい。オープンスペースより道にチョットしたベンチが欲しい
- ・私有地の樹木放置をやめてもらいたい
- ・千歳川のゴミや草処理
- ・商業地と住宅地を区分して考える
- ・道路の街路樹が汚い
- ・自由であっていい
- ・駅前の駐車場ぐらい無料にしろ
- ・大きな計画は町民にも意見を聞いてほしい

(5) 災害に強いまちづくりについて

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進2. 洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理3. 雨水排水施設や雨水貯留施設等の整備や維持・管理4. 土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築5. 緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備6. 防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成7. わからない8. その他（ | ） |
|---|---|

- ・ 災害に強いまちづくりについては、「土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築」が 36.2%で最も高く、ついで「緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備」が 32.7%となっている。
- ・ 性別でみると、男性では「土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築」が 40.9%、女性では「緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備」が 36.9%で1位となっている。
- ・ 年齢別でみると、20 歳代では「土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築」が 52.0%で1位となっており、高い回答率となっている。
- ・ 居住地別でみると、4 地区ともに「土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築」が1位、「緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備」が2位となっている。3位では第1地区、第4地区が「防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成」、第2地区が「地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進」、第3地区が「洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理」となっており、いずれも約2割となっている。



		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総計		土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	36.2%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	32.7%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	19.8%
性別	男性	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	40.9%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	27.2%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	17.9%
	女性	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	36.9%	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	32.7%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	21.3%
年齢	10歳代	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築 緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備 防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成	40.0%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進 洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理 雨水排水施設や雨水貯留施設等の整備や維持・管理	20.0%	-	-
	20歳代	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	52.0%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	40.0%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進 洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	24.0%
	30歳代	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	38.9%	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	36.1%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進	33.3%
	40歳代	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	46.6%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	32.8%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進	27.6%
	50歳代	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	35.4%	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	31.3%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進	19.2%
	60歳代	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	42.1%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	29.0%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	28.3%
	70歳代以上	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	34.3%	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	31.4%	防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成	16.3%
居住区	第1地区	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	38.2%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	26.5%	防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成	17.7%
	第2地区	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	31.7%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	30.5%	地震等による倒壊や火災による延焼を防ぐため、建替えや不燃化の促進	16.3%
	第3地区	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	42.9%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	35.2%	洪水による浸水被害を防ぐため、河川の改修や維持・管理	14.3%
	第4地区	土砂災害の被害最小化のための事前対策や復旧体制の構築	39.4%	緊急時の避難所や避難場所、備蓄倉庫等の整備	34.4%	防災情報の発信や避難訓練等による災害への意識の醸成	17.4%

【その他の記載】

- ・津波が心配
- ・何かあると熱海方面、小田原方面どちらにも行けなくなる。孤立したときどうにか
できる町にしてほしい
- ・農道の整備
- ・対策しても対応は難しいので避難道を整備しろ
- ・雨量が増えていることで土砂災害が発生しているのでその対策
- ・地震の倒壊、火災での延焼の際の避難対策の検討
- ・災害時に住民に配られる防災備品の充実。
- ・公共施設での雑魚寝ではなく、人権とプライバシーに配慮した備品の準備と、災害
の混乱時にも素早く対応できるマニュアル整備及び関係機関、住民の訓練を希望し
ます。
- ・町内
- ・全部
- ・全部大切
- ・災害については1～6 全て大事

- １．町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき
- ２．町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき
- ３．基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき
- ４．その他（ ）

-
- A horizontal bar chart with a white background and a black border. The x-axis is at the top, labeled from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. The y-axis lists five response categories. Each category has a corresponding horizontal bar with a diagonal hatching pattern. The percentage value for each bar is written to its right.
- | Response Category | Percentage |
|--|------------|
| 町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき (回答数=38) | 5.8% |
| 町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき (回答数=342) | 52.5% |
| 基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき (回答数=228) | 35.0% |
| その他 (回答数=9) | 1.4% |
| 無回答 (回答数=35) | 5.4% |

		1位	比率	2位	比率	3位	比率
総 計		町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	52.5%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	35.0%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	5.8%
性別	男 性	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	51.8%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	36.2%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	5.7%
	女 性	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	53.5%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	34.5%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	6.0%
年 齢	10歳代	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	60.0%	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	40.0%	-	-
	20歳代	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	60.0%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	32.0%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	4.0%
	30歳代	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	77.8%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	16.7%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	2.8%
	40歳代	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	60.3%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	34.5%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	1.7%
	50歳代	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	50.5%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	35.4%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	10.1%
	60歳代	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	50.3%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	36.6%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	5.5%
	70歳代以上	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	49.1%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	36.8%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	6.1%
居 住 区	第1地区	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	55.9%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	32.4%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	5.9%
	第2地区	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	53.3%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	34.6%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	4.5%
	第3地区	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	52.8%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	30.8%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	7.7%
	第4地区	町民と行政とが役割分担しながら、協働でまちづくりを行うべき	51.0%	基本的には行政が責任をもって、まちづくりを進めるべき	37.8%	町民が中心となり、行政はその手助けをしながら、まちづくりを行うべき	6.2%

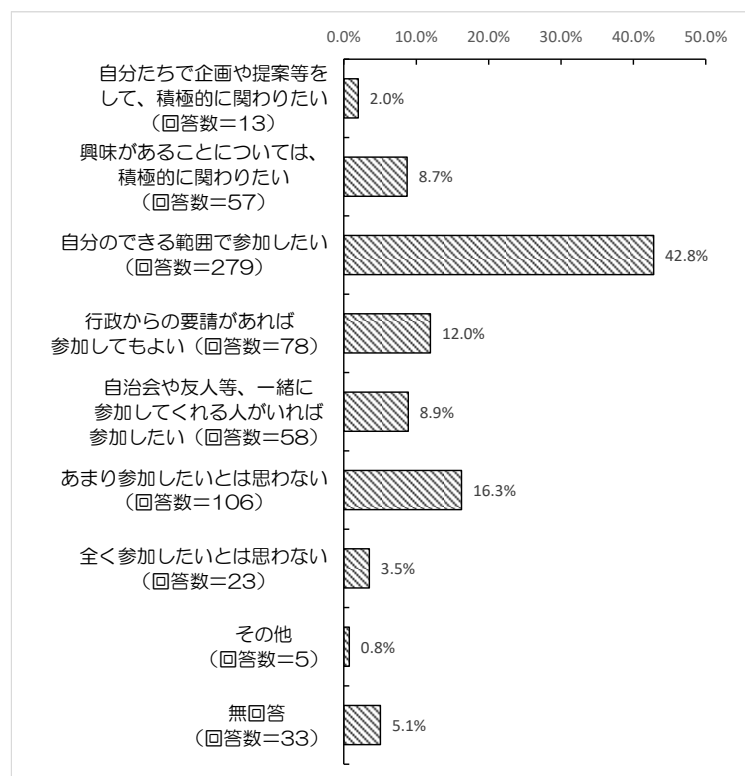
【その他の記載】

- ・無駄なことはしない手をかけるべきではない。
- ・町の将来ビジョンが見えないので何も言えない
- ・新しい施設に着手時は町民との話し合いをするべきである
- ・行政の責任が必要

問 18 あなたは、まちづくりへの参加について、どのようにお考えですか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

1. 自分たちで企画や提案等をして、積極的に関わりたい
2. 興味があることについては、積極的に関わりたい
3. 自分のできる範囲で参加したい
4. 行政からの要請があれば参加してもよい
5. 自治会や友人等、一緒に参加してくれる人がいれば参加したい
6. あまり参加したいとは思わない
7. 全く参加したいとは思わない
8. その他（

- ・まちづくりへの参加については、「自分のできる範囲で参加したい」が 42.8%で最も高く、なっている。
- ・年齢別でみると、全ての年齢層で「分のできる範囲で参加したい」が1位となっており、約4～5割となっている。一方で「あまり参加したいとは思わない」については40～50歳代、70歳代以上が2位となっており、約2割となっている。
- ・居住地別でみると、第1地区では2位が「自治会や友人等、一緒に参加してくれる人がいれば参加したい」で17.7%となっているが、その他の地区では「あまり参加したいとは思わない」が回答されている。



		1 位	比率	2 位	比率	3 位	比率
総 計		自分のできる範囲で参加したい	42.8%	あまり参加したいとは思わない	16.3%	行政からの要請があれば参加してもよい	12.0%
性別	男 性	自分のできる範囲で参加したい	39.2%	あまり参加したいとは思わない	17.3%	行政からの要請があれば参加してもよい	13.6%
	女 性	自分のできる範囲で参加したい	47.5%	あまり参加したいとは思わない	15.3%	行政からの要請があれば参加してもよい	10.8%
年齢	10歳代	自分のできる範囲で参加したい	40.0%	興味があることについては、積極的に関わりたい 行政からの要請があれば参加してもよい あまり参加したいとは思わない	20.0%	-	-
	20歳代	自分のできる範囲で参加したい	48.0%	興味があることについては、積極的に関わりたい	24.0%	あまり参加したいとは思わない	16.0%
	30歳代	自分のできる範囲で参加したい	36.1%	行政からの要請があれば参加してもよい	22.2%	興味があることについては、積極的に関わりたい あまり参加したいとは思わない	16.7%
	40歳代	自分のできる範囲で参加したい	44.8%	あまり参加したいとは思わない	19.0%	行政からの要請があれば参加してもよい	12.1%
	50歳代	自分のできる範囲で参加したい	42.4%	あまり参加したいとは思わない	16.2%	自治会や友人等、一緒に参加してくれる人がいれば参加したい	10.1%
	60歳代	自分のできる範囲で参加したい	38.6%	行政からの要請があれば参加してもよい	22.8%	あまり参加したいとは思わない	13.1%
	70歳代以上	自分のできる範囲で参加したい	45.9%	あまり参加したいとは思わない	17.7%	自治会や友人等、一緒に参加してくれる人がいれば参加したい	10.1%
居住区	第1地区	自分のできる範囲で参加したい	38.2%	自治会や友人等、一緒に参加してくれる人がいれば参加したい	17.7%	あまり参加したいとは思わない	14.7%
	第2地区	自分のできる範囲で参加したい	45.5%	あまり参加したいとは思わない	14.6%	行政からの要請があれば参加してもよい	11.4%
	第3地区	自分のできる範囲で参加したい	38.5%	あまり参加したいとは思わない	20.9%	興味があることについては、積極的に関わりたい	13.2%
	第4地区	自分のできる範囲で参加したい	43.2%	あまり参加したいとは思わない	16.2%	行政からの要請があれば参加してもよい	15.4%

【その他の記載】

- ・各地区の代表が自治会なので
- ・高齢に近づいているので基本的には参加できない
- ・時間も気力もない
- ・町民の意見を聴く場を設け、行政が検討。一年以内に実施するかしないかを回答する。

1. 非常に必要である	3. 必要でない
2. 多少は必要である	4. わからない
	5. その他 ()

-
- | 回答内容 | 回答数 | 割合 |
|----------|-----|-------|
| 非常に必要である | 86 | 13.2% |
| 多少は必要である | 290 | 44.5% |
| 必要でない | 30 | 4.6% |
| わからない | 173 | 26.5% |
| その他 | 5 | 0.8% |
| 無回答 | 68 | 10.4% |

		1位	比率	2位	比率	3位	比率
	総 計	多少は必要である	44.5%	わからない	26.5%	非常に必要である	13.2%
性 別	男 性	多少は必要である	41.5%	わからない	27.6%	非常に必要である	14.3%
	女 性	多少は必要である	48.7%	わからない	25.2%	非常に必要である	12.0%
年 齢	10歳代	わからない	60.0%	非常に必要である 多少は必要である	20.0%	-	-
	20歳代	多少は必要である	44.0%	わからない	40.0%	非常に必要である	12.0%
	30歳代	多少は必要である	58.3%	わからない	30.6%	非常に必要である	8.3%
	40歳代	多少は必要である	43.1%	わからない	29.3%	非常に必要である	19.0%
	50歳代	多少は必要である	46.5%	わからない	29.3%	非常に必要である	13.1%
	60歳代	多少は必要である	44.1%	わからない	26.2%	非常に必要である	13.8%
	70歳代以上	多少は必要である	43.3%	わからない	23.5%	非常に必要である	12.3%
居 住 区	第1地区	多少は必要である	38.2%	非常に必要である	26.5%	わからない	20.6%
	第2地区	多少は必要である	42.7%	わからない	26.8%	非常に必要である	14.6%
	第3地区	多少は必要である	39.6%	わからない	26.4%	非常に必要である	13.2%
	第4地区	多少は必要である	49.4%	わからない	27.4%	非常に必要である	9.7%

- ・自由なものでなければならない
- ・高齢のため

問 20 問 19 で「1」または「2」を回答した方にお聞きします。

あなたは、次のまちづくり活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたいと思いますか。項目ごとに当てはまるものに「○」をつけてください。

項 目	参加したことがある	参加してみたい
1. 地域の清掃・美化活動		
2. 花植等の緑化活動		
3. 防犯のための見回り活動		
4. 交通安全のための見守り活動		
5. 自治会の活動		
6. まちづくりに関する話し合い		
7. その他		

- ・参加したことがある、または、今後参加してみたいまちづくり活動については、参加したことがある活動では「1. 地域の清掃・美化活動」が 49.2%で最も高く、ついで「5. 自治会の活動」が 32.7%となっている。その他の活動は全て約 1 割となっている。参加してみたい活動では「2. 花植等の緑化活動」が 22.6%で最も高く、ついで「6. まちづくりに関する話し合い」が 17.3%となっている。

